

奈良工業高等専門学校				システム創成工学専攻（情報システムコース）				開講年度		平成28年度（2016年度）					
学科到達目標															
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	特修英語Ⅰ	0001	学修単位	2									C.E. グレイディ	
一般	必修	特修英語Ⅱ	0002	学修単位	2									C.E. グレイディ	
一般	選択	社会と文化	0003	学修単位	2										
一般	選択	スポーツ科学特論	0004	学修単位	2										
一般	選択	アドバンスト・グローバルコミュニケーション	0005	学修単位	2									朴 槿英	
一般	選択	リーダーシップと意思決定	0024	学修単位	2									藤田 直幸, 顯谷 智也子	
専門	必修	地域社会技術特論	0006	学修単位	2									谷口 幸典, 藤田 直幸, 顯谷 智也子	
専門	選択	数理科学A	0007	学修単位	2										
専門	選択	数理科学B	0008	学修単位	2									飯間 圭一郎	
専門	選択	物理学特論A	0009	学修単位	2									新野 康彦	
専門	選択	インターンシップ	0010	学修単位	2	集中講義								上野 秀剛	
専門	選択	海外インターンシップ	0011	学修単位	2	集中講義								直江 一光, 朴 槿英	
専門	選択	アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	0012	学修単位	2									Leigh McDowell	
専門	選択	工学基礎研究	0014	履修単位	10										
専門	選択	地域創生工学研究	0015	履修単位	10										
専門	必修	システムデザイン演習	0016	履修単位	3									福岡 寛, 土井 滋貴, 飯田 賢一, 山口 智浩	
専門	必修	システム設計論Ⅰ	0017	学修単位	2									上野 秀剛	
専門	必修	システム設計論Ⅱ	0018	学修単位	2									須田 敦	
専門	必修	機械設計技術基礎	0019	学修単位	2									廣 和樹, 矢野 順彦	
専門	必修	研究力向上セミナーⅠ（情報系）	0020	学修単位	2									松村 寿枝, 山口 賢一	
専門	選択	実用技術英語（電気電子・情報系）	0021	学修単位	2									小坂 洋明	
専門	選択	計算理論	0022	学修単位	2									岡村 真吾	
専門	選択	計算機ハードウェア	0023	学修単位	2									山口 賢一	
専門	必修	技術者倫理	0025	学修単位	2									平田 裕子, 藤木 篤	
専門	選択	数理科学	0026	学修単位	2									飯間 圭一郎	
専門	選択	エンジニアと経営	0027	学修単位	2									顯谷 智也子	
専門	選択	アドバンスト・グローバルチャレンジ	0028	学修単位	2									朴 槿英	

[illegible]

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	特修英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	「General Science」 Martin Bates and Tony Dudley-Evans, Nan'UN-Do, 1996 & Original Handouts						
担当教員	C.E. グレイディ						
到達目標							
This course aims to improve the engineering students' ability to expand their vocabulary and express their thoughts related to general scientific issues in English as well as to develop listening, speaking, reading and writing skills needed to conduct professional research in their majors. 本講義では、理工学系の語彙力を深め、一般科学分野の話題に関する考えを英語で表現する能力並びに専門研究のために必要な言語能力の向上を目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	一般科学技術に関する語彙、短文を読み、正しく内容を理解することができる。			一般科学技術に関する語彙、短文を読み、おおむね内容を理解することができる。		一般科学技術に関する語彙、短文を読み、正しく内容を理解することができない。	
評価項目2	理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができる。			理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、おおむね運用することができる。		理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができない。	
評価項目3	理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、的確に解説することができる。			理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、おおむね解説することができる。		理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、的確に解説することができない。	
評価項目4	理工学系英語の口頭質問を正確に理解し、正しく回答することができる。			理工学系英語の口頭質問をおおむね理解し、おおむね回答することができる。		理工学系英語の口頭質問を理解し、正しく回答することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2							
教育方法等							
概要	This course serves as an ESP introductory classes for engineering students to develop English language skills needed to conduct professional research in their majors by using the designated textbook with various audiovisual education materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.						
授業の進め方・方法	This course is centered on a lecture, and some oral presentations using PPT slides with Q&A session. The contents and schedule are as shown below:						
注意点	Students are required to prepare and review for the assigned part of the designated textbook or handouts for each class.						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction, Shapes		To understand the expression related to shapes		
		2週	Properties I & Reading Practice		To understand the expression related to properties		
		3週	Location		To understand the expression related to location		
		4週	Properties II & Reading Practice		To understand the expression related to properties		
		5週	Structure I		To understand the expression related to structure		
		6週	Structure II & Reading Practice		To understand the expression related to structure		
		7週	Measurement I & Reading Practice		To understand the expression related to measurement		
		8週	Process I		To understand the expression related to process		
	2ndQ	9週	Process II & Reading Practice		To understand the expression related to process		
		10週	Process III		To understand the expression related to process		
		11週	A Written Examination		To be assessed each level of reading comprehension		
		12週	Test Review		To be assessed each level of reading comprehension		
		13週	How to Give Technical Presentations		To understand how to give a successful presentation		
		14週	Final Presentations (1)		To be assessed each level of presentation		
		15週	Final Presentations (2)		To be assessed each level of presentation		
		16週	Review		Finalizing & Evaluations		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	Test	Presentation	Report	Class Participation			合計
総合評価割合	40	30	20	10	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	10	0	0	50
専門的能力	0	0	20	0	0	0	20
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	特修英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「General Science」, Martin Bates and Tony Dudley-Evans, Nan'UN-Do, 1996 & Original Handouts						
担当教員	C.E. グレイディ						
到達目標							
This course aims to improve the engineering students' ability to expand their vocabulary and express their thoughts related to general scientific issues in English as well as to develop listening, speaking, reading and writing skills needed to conduct professional research in their majors. 本講義では、工学系の語彙力を深め、一般科学分野の話題に関する考えを英語で表現する能力並びに専門研究のために必要な言語能力の向上を目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	一般科学技術に関する語彙、短文を読み、正しく内容を理解することができる。		一般科学技術に関する語彙、短文を読み、おおむね内容を理解することができる。		一般科学技術に関する語彙、短文を読み、正しく内容を理解することができない。		
評価項目 2	理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができる。		理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、おおむね運用することができる。		理工学系英語で使用頻度の高い語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができない。		
評価項目 3	理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、的確に解説することができる。		理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、おおむね解説することができる。		理工学系グラフ、表、図面を英語で作成し、的確に解説することができない。		
評価項目 4	理工学系英語の口頭質問を正確に理解し、正しく回答することができる。		理工学系英語の口頭質問をおおむね理解し、おおむね回答することができる。		理工学系英語の口頭質問を理解し、正しく回答することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2							
教育方法等							
概要	This course serves as an ESP introductory classes for engineering students to develop English language skills needed to conduct professional research in their majors by using the designated textbook with various audiovisual education materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.						
授業の進め方・方法	This course is centered on a lecture, and some oral presentations using PPT slides with Q&A session. The contents and schedule are as shown below:						
注意点	Students are required to prepare and review for the assigned part of the designated textbook or handouts for each class.						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Process IV & Reading Practice		To understand the expression related to process		
		2週	Quantity & Reading Practice		To understand the expression related to quantity		
		3週	Cause and Effect I		To understand the expression related to cause and effect		
		4週	Cause and Effect II & Reading Practice		To understand the expression related to cause and effect		
		5週	Proportion I		To understand the expression related to proportion		
		6週	Proportion II & Reading Practice		To understand the expression related to proportion		
		7週	Measurement II		To understand the expression related to measurement		
		8週	Measurement Probability		To understand the expression related to measurement probability		
	4thQ	9週	Method I		To understand the expression related to method		
		10週	Method II & Reading Practice		To understand the expression related to method		
		11週	A Written Examination		To be assessed each level of reading comprehension		
		12週	Test Review		To be assessed each level of reading comprehension		
		13週	How to Handle Q and A		To practice how to handle Q and A Session		
		14週	Final Presentations (3)		To be assessed each level of presentation		
		15週	Final Presentations (4)		To be assessed each level of presentation		
		16週	Review		Finalizing & Evaluations		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	Test	Presentation	Report	Class Participation			合計	
総合評価割合	40	30	20	10	0	0	100	
基礎的能力	40	0	0	10	0	0	50	
専門的能力	0	0	20	0	0	0	20	
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	リーダーシップと意思決定	
科目基礎情報							
科目番号	0024			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	藤田 直幸,顯谷 智也子						
到達目標							
〔到達目標〕 1. チームリーダーとしての役割を述べることができる。 2. リーダーシップを発揮するための思考法を学び、リーダーとしてチームでの討議や演習を円滑に進めることができる。 3. 社会における意思決定に影響を及ぼす要因について、述べることができる。 4. 意思決定に導くための思考プロセスを理解し、演習においてその思考プロセスを実践することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 チームリーダーの役割	チームリーダーとして役割を自身の特性と合わせて述べる事が出来る。			チームリーダーとしての役割を述べる事ができる。		チームリーダーとしての役割を述べる事ができない。	
評価項目2 リーダーシップ	自身の特性を理解し、それを生かして、リーダーとしてチームでの討議や演習を円滑に進めることができる。			リーダーとしてチームでの討議や演習を円滑に進めることができる。		リーダーとしてチームでの討議や演習を円滑に進める事ができない。	
評価項目3 意思決定 1	自身の特性を意思決定をする際にどのように生かすかも右記に合わせて述べる事が出来る。			社会における意思決定に影響を及ぼす要因について、述べる事ができる。		社会における意思決定に影響を及ぼす要因について、述べる事ができない。	
評価項目 4 意思決定 2	意思決定に導くための思考プロセスを理解し、自身の特性を生かして、演習においてその思考プロセスを実践することができる。			意思決定に導くための思考プロセスを理解し、演習においてその思考プロセスを実践することができる。		意思決定に導くための思考プロセスを理解し、演習においてその思考プロセスを実践することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、リーダーに求められる「資質」と「スキル」を体系的に学び、チームの目標達成に向けてのリーダー自身の行動と役割について理解することを目的とする。また、リーダーとして、合理的思考のもと、自立的に判断し、決断できるようになるための「意思決定力」を身につけるために、意思決定に導くための思考プロセスを、ケースや演習を通して体現し、理解を深める。 ＜実務との関係＞ この科目は、企業でのスマートフォンやタブレットなどの情報機器の開発に携わり管理職経験があり、また加えてMBA（経営管理修士）の専門職学位を有する教員が、その知識と実務経験を活かし授業全体をマネージすると共に、各講義テーマに沿って企業での実務経験者が授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	本講義では、リーダーシップ論や、問題解決の方法、ロジカルシンキングなどの思考法を学ぶとともに、リーダーとしての素養であるコーチング技法や、意思決定の役立つリスク管理や財務諸表を読み解く力を養う。 授業は、各分野の専門家の講師を招き、オムニバス形式で行う。						
注意点	しなやかエンジニア教育プログラム アドバンストコースを修了するには、本科目に加え「エンジニアと経営」「ビジネスデザイン」を履修する必要がある。 事前学習：毎回の講義テーマごとに、授業での理解度を高めるために、事前にテーマ分野の情報収拾に努めること。 事後展開学習：各分野の講義後、講義の内容や気づきを振り返り、個人の振り返りレポートを記入し、次回の講義までに提出すること。最終の成績評価には、振り返りレポートを考慮する。						
学修単位の履修上の注意							
振り返りレポートには、各自、またグループでの共有によって修得した知識、気づきについて、具体的に明確に記述するように努めること。 最終レポートは、レポートのテーマとルーブリックに基づいた評価の観点を事前に提示するので、毎回の振り返りシートをもとに、テーマに沿って各自の考えを整理しておくこと。 外部講師による講義を含むため、講義内容の順番は変更される可能性がある。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		講義概要説明		
		2週	コーチング 1		「TAエゴグラム」 TAエゴグラムを用い、自分のパーソナリティを知り、エンジニアとしての行動変革をエゴグラムから考える		
		3週	コーチング 2		「コーチングの基本スキル」 傾聴・承認・質問・伝えるスキルについての体験学習		
		4週	コーチング 3		「GROWモデル演習」 総合演習「エンジニアとしてのキャリア」を考える		
		5週	モチベーション		やる気（モチベーション）をめぐるこころの仕組みについて、考える		
		6週	リーダーシップ論 1		リーダーとして必要とされる資質を学ぶ		
		7週	リーダーシップ論 2		リーダーとして必要とされる資質を学ぶ		
		8週	アントレプレナーシップ 1		アントレプレナーシップとは何かを事例を通して理解する		
	4thQ	9週	アントレプレナーシップ 2		近年アントレプレナーシップは必要とされている背景について学ぶ		
			10週	財務諸表分析 1		貸借対照表、損益計算書の読み方を理解する	

		11週	財務諸表分析 2	貸借対照表、損益計算書から会社の状態を分析する方法を理解する
		12週	消費者行動 1	消費者行動について理解する
		13週	消費者行動 2	消費者行動について理解する
		14週	講義振り返り	講義からの学んだことを振り返り、チームで共有する
		15週	学習成果の自己分析	全講義を振り返り、最終課題をレポートとしてまとめる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		振り返りレポート	期末レポート		合計
総合評価割合		60	40	0	100
到達目標1～4		60	40	0	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	地域社会技術特論	
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	適宜プリント資料を配付						
担当教員	谷口 幸典,藤田 直幸,顯谷 智也子						
到達目標							
1. 地方創生とはなにかと、その重要性について説明ができる。 2. テーマに対して、現状を把握し、あるべき姿（目標）とのギャップから問題を明確にし、問題に対する調査・分析結果から課題を導き出すという課題発見の一連のプロセスを理解している。 3. 課題を解決する具体的な手段を自身の専門分野と関連付けて提案することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
地方創生への貢献力	地域創生に対して技術者が果たす役割について、自身の専門分野と関連付けて提案することができる。		右記に加えて、地域創生に対して技術者が果たす役割について説明できる。		地方創生とはなにかと、その重要性について説明ができる。		地方創生とはなにかと、その重要性について説明ができない。
課題分析能力	右記に加えて、問題の要因を明快に説明することができる。		右記に加えて、課題の背景にある現状とあるべき姿、並びに具体的な問題点を示すことができる。		企業から提示される課題に対し、課題の背景にある現状とあるべき姿（目標）を探り、そのギャップから問題を明確するという課題分析の一連のプロセスを理解している。		企業から提示される課題に対し、課題の背景にある現状とあるべき姿（目標）を探り、そのギャップから問題を明確するという課題分析の一連のプロセスを理解していない。
課題解決能力	右記に加え、解決策の成果（目標値）や地域への貢献度を自身の専門分野と関連付けて説明することができる。		右記に加え、提案した解決策が実効可能である裏付けを説明することができる。		その課題を解決する具体的な手段を導き出すことができる。		その課題を解決する具体的な手段を導き出すことができない。
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-1) JABEE基準 (d-2a) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 B-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要	1) 地方創生とは何か、また地方創生に対して技術者が果たす役割とその重要性について理解する。 2) 奈良県内ものづくり企業等の抱える問題に対する課題解決策の作成を通じて、技術者が社会の関わりの中で身につけるべき、課題発見、課題分析、解決策考案、解決策評価という一連の流れを理解し、それを実践する。 3) グループワークを通じ、ファシリテーション能力、コミュニケーション能力、チームビルディング力など社会的自立に必要な汎用的能力を養う。 実務との関係 この科目は、企業でスマートフォンやタブレットなどの情報機器の開発に携わり、また加えてMBA（経営管理修士）の専門職学位を有する教員が、その知識と実務経験を活かし、奈良県内ものづくり企業等の抱える問題に対して課題解決型学習形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	「地域創生に対して技術者として何ができるか？」を課題とした問題解決をグループで取り組む。奈良県内ものづくり技術を牽引している企業を訪問調査（工場見学）し、その発展の歴史を含めたオンリーワン技術を知るとともに、地域においてさらなる発展を目指す上で抱えている問題、あるいは、研究・開発に係る課題、を演習テーマとして設定し、それを解決するアイデアを創造する過程を通じて、地域創生に寄与するための問題分析力、問題解決能力を養う。協力企業の方々が出席する中間発表会および最終発表会を行う。 中間発表会では、問題の背景分析、設定課題の抽出プロセス、解決すべき課題の絞り込み、および課題解決策の案について発表する。 最終発表会では、中間発表時に企業からいただくコメントを加味して課題を修正するとともに、設定した課題に対する解決策とその根拠を発表する。 なお、本科目は課題解決策のアイデア創出とその発表を行うものであり、実際のものづくりを行うものではない。						
注意点	事前学習 毎回の授業時にグループで決定した各自の役割分担に基づき作業（資料収集、スライド作成等）を遂行し、次回の授業時に円滑にグループ作業ができるようにする。 事後展開学習 グループでの作業となるが、コミュニケーション能力、チームビルディング力に係る役割・作業分担を明確にするために、毎回の講義後に個人の作業振り返りシートを記入・提出する。また、授業のまとめのレポートも作成する。最終の成績評価には、レポートと毎週の振り返りシートを考慮する。						
学修単位の履修上の注意							
中間発表、最終発表前にグループとしてわかりやすい発表資料を作成、期限までに提出すること。 作業振り返りシートに明確に分担項目と進捗状況を記載できるように情報収集に努めること。 最終レポートはルーブリックに基づいた評価の観点の観点を事前に提示するので、自分のグループの取り組みについて、解決策提案に至った一連の流れを各自で整理しておくこと。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、グループ分け		現地調査の結果を振り返り、問題を理解できる。		
		2週	奈良県の製造業の現状についての事前調査		マインドマップ等を活用し、上記問題の背景について調査できる。		
		3週	ファシリテーションの技法		ファシリテーション手法について学び、合意形成などのグループワークに活用することができる。		

		4週	問題分析と課題設定	現地調査から見えてきた問題点を分析し、それを解決する課題設定ができる。
		5週	問題分析と課題設定	現地調査から見えてきた問題点を分析し、それを解決する課題設定ができる。
		6週	問題解決演習	設定した複数の課題を評価するとともに、選定した課題について解決策の案を提案できる。
		7週	中間発表会準備	中間発表会の資料を、分かりやすくまとめることができる。
		8週	中間発表会	事前調査や現地調査を通して得た情報から、問題の原因、解決すべき課題、解決策案についてまとめて発表することができる。
	2ndQ	9週	問題解決演習	中間発表でのコメントも加味して設定した課題に対し、チーム内で議論および調査活動を行い、具体的な解決策を導き出すことができる。
		10週	問題解決演習	設定した課題に対し、チーム内で議論および調査活動を行い、具体的な解決策を導き出すことができる。
		11週	問題解決演習	設定した課題に対し、チーム内で議論および調査活動を行い、具体的な解決策を導き出すことができる。
		12週	問題解決演習	設定した課題に対し、チーム内で議論および調査活動を行い、具体的な解決策を導き出すことができる。
		13週	最終提案発表会準備	最終発表会の資料を、分かりやすくまとめることができる。
		14週	最終提案発表会準備	最終発表会の資料を、分かりやすくまとめることができる。
		15週	最終提案発表会	中間発表時のコメントも加味し、設定した課題に対する解決策とその根拠を分かりやすく発表することができる。
		16週	まとめ（期末レポート提出）	授業で取り組んだ一連の作業を整理してレポートにまとめ、地方創生に対して技術者が果たす役割とその重要性について理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		レポート	発表	継続的に取り組む姿勢	合計
総合評価割合		45	45	10	100
基礎的能力		10	10	10	30
専門的能力		15	15	0	30
分野横断的能力		20	20	0	40

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	0010			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）			対象学年	専1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材							
担当教員	上野 秀剛						
到達目標							
技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶこと。さらに自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。社会人としての自主性、創造性および柔軟性の大切さを覚ること。 さらに、学生として残された学生時代になすべきことを再考する機会とすること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	右記に加え、派遣先担当者とのコミュニケーションを実践した結果、研修課題を達成できる。			技術者としての心構えや社会人として何が必要かを理解している。		技術者としての心構えや社会人として何が必要かを理解できていない。	
評価項目2	インターンシップ参加前後の自己分析を以て残り学生生活にて実践すべき事柄を明確に提示できる。			自らが職業意識をどのように高めたかを発表会で説明できる。		自らが職業意識をどのように高めたかを発表会で説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (c) JABEE基準 (d-2a) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 B-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要	企業・大学その他の公的機関等において、実務担当者の指導のもとで実習体験をすることにより、実践的技術感覚を体得するとともに、学習意欲の向上および専攻科修了後の進路に対する職業意識の形成等を目的とする。 授業の進め方と授業内容・方法： 学外実習のテーマおよび内容については、本校と実習機関が協議して定める。ただし、実習先の企業等で用意されたテーマおよび内容を実務体験することもある。						
授業の進め方・方法	学外実習のテーマおよび内容については、本校と実習機関が協議して定める。ただし、実習先の企業等で用意されたテーマおよび内容を実務体験することもある。						
注意点	実習先で発行される専攻科学外実習証明書と実習学生が作成する専攻科学外実習報告書および専攻科学外実習日誌の提出、さらに校内で行う実習報告会での発表をもって履修条件とする。 実習中は安全に留意すること。実習者は保険に加入することを義務づける。 事前学習 日程を考慮したスケジュール管理を行い、実習先候補を複数検討しておくこと。また、実習機関決定後は実習機関への応募手続きを遅漏なく実施できるように窓口教員との連絡を密にとり準備を進めること。 事後展開学習 実習開始後の日誌を取って実習終了後速やかに提出すること。						
学修単位の履修上の注意							
実習日誌を完成させたうえで、指定の期日までに分かりやすい報告書ならびに報告会用のスライドを作成、提出すること。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		インターンシップの意義と手続きを理解できる。		
		2週	実習先決定		修得すべき技能を定義し、実習先を調査できる。		
		3週	実習先決定		修得すべき技能を定義し、実習先を調査できる。		
		4週	研修会		研修会・講演会に出席し、社会人基礎力とはなにかを理解する。		
		5週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		6週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		7週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		8週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
	2ndQ	9週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		10週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		11週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		12週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		13週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		14週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		15週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
		16週	準備		社会人基礎力を高めることができる。		
後期	3rdQ	1週	実習		夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取組むことができる。		
		2週	実習		夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取組むことができる。		
		3週	実習		夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取組むことができる。		

		4週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		5週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		6週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		7週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		8週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
	4thQ	9週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		10週	実習	夏季休業期間中において受入先で安全かつ真摯に研修に取り組むことができる。
		11週	報告書作成	期間中の日誌をまとめて報告書を作成できる。
		12週	報告書作成	期間中の日誌をまとめて報告書を作成できる。
		13週	報告書作成	期間中の日誌をまとめて報告書を作成できる。
		14週	報告書作成	期間中の日誌をまとめて報告書を作成できる。
		15週	報告会	取組んだ内容をプレゼンできる。
		16週	まとめ	取組みを総括し、職業意識について自己分析できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		報告書	日誌	報告会	合計
総合評価割合		50	25	25	100
基礎的能力		50	25	25	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	工学基礎研究	
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	実験		単位の種別と単位数		履修単位: 10		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年		専1		
開設期	通年		週時間数		10		
教科書/教材	特になし						
担当教員							
到達目標							
自ら研究計画を立案し、実施し、研究成果を報告書にまとめるとともに、報告会で発表する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
取組	自ら考えて研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組み、結果を得ることができる。		指導教員の指示に従い、研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組むことができる。		研究への十分な準備ができず、積極的に研究に取り組むことができない。		
研究報告（報告書・発表等）	十分な準備をした上で、自らの研究成果についてわかりやすく発表することができるとともに、質疑応答にも的確に対応できる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができるとともに、質疑応答に対応できる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (f) JABEE基準 (g) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2							
教育方法等							
概要	本科で実施した卒業研究の経験を基礎に、より高度な研究に取り組むために必要な種々の能力（主体性、自己管理力、責任感、コミュニケーションスキル、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力）の向上を目的に実施する。						
授業の進め方・方法	学生 1 人 1 人に個別の研究テーマを与え、研究活動に取り組ませる。指導教員を定め、日々の研究活動や、発表会での発表や報告書の作成について個別に指導する。						
注意点	事前学習：研究テーマに関連した国内外の文献調査を積極的に行うこと 事後展開学習：研究計画に基づいて自主的かつ積極的に進めるとともに、常に進捗状況を指導教員に報告し、十分な討論を行うこと。						
学修単位の履修上の注意							
週ごとの到達目標に関して指導教員の指示に応じて取組むこと。 報告書の完成に至るまで、指導教員との間で十分な報告、連絡、相談ができていること。 発表に関して、十分な推敲を重ねた結論と展望が述べられること。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		全体のガイダンスを実施後、研究室配属を決めることができる。		
		2週	研究テーマの決定		指導教員の指導の下、研究テーマを決定することができる。		
		3週	研究活動の指導		研究活動の中で、以下のような力や姿勢などを身につけることができる。 ①課題を解決するために必要な力 ②情報を収集し、活用する力 ③スケジュールなどを自己管理する力 ④主体的に研究に関わる姿勢 ⑤責任感を持って研究に関わる態度 ⑥研究を円滑に進めるためのコミュニケーションスキル ⑦研究成果を効果的に発信する力 ⑧論理的な思考力 ⑨日本語で論理的な文章をまとめる力 研究報告書を作成の上、研究室毎に研究報告会を実施する。 【教員の担当分野】 情報工学基礎：松尾、岡村 計算システム：本間、内田、山口賢、上野 情報処理：松村 電気電子・通信・システム：山口智		
		4週	研究活動の指導		同上		
		5週	研究活動の指導		同上		
		6週	研究活動の指導		同上		
		7週	研究活動の指導		同上		
		8週	研究活動の指導		同上		
	2ndQ	9週	研究活動の指導		同上		
		10週	研究活動の指導		同上		
		11週	研究活動の指導		同上		
		12週	研究活動の指導		同上		

		13週	研究活動の指導	同上
		14週	研究活動の指導	同上
		15週	研究活動の指導	同上
		16週	研究活動の指導	同上
後期	3rdQ	1週	研究活動の指導	同上
		2週	研究活動の指導	同上
		3週	研究活動の指導	同上
		4週	研究活動の指導	同上
		5週	研究活動の指導	同上
		6週	研究活動の指導	同上
		7週	研究活動の指導	同上
		8週	研究活動の指導	同上
	4thQ	9週	研究活動の指導	同上
		10週	研究活動の指導	同上
		11週	研究活動の指導	同上
		12週	研究活動の指導	同上
		13週	研究活動の指導	同上
		14週	研究活動の指導	同上
		15週	研究活動の指導	同上
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		研究に対する取り組み	研究報告書	研究発表	合計
総合評価割合	50	20	30	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	50	20	30	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	地域創生工学研究
科目基礎情報						
科目番号	0015		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 10		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	10		
教科書/教材	特になし					
担当教員						
到達目標						
データ解析法、結果の整理法、表現・発表能力、論文作成能力の基礎力を養うこと。 研究発表会：研究計画を立案し、実験装置を作成し、実験方法を確立するとともに、研究発表要旨に研究成果の概要をまとめ、発表する能力を養うこと。加えて地域の問題について関心を持ち、その解決に積極的に関わろうとする態度を有すること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
取組	自ら考えて研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組み、結果を得ることができる。		指導教員の指示に従い、研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組むことができる。		研究への十分な準備ができず、積極的に研究に取り組むことができない。	
研究報告（報告書、発表等）	十分な準備をした上で、自らの研究成果についてわかりやすく発表することができるとともに、質疑応答にもの確に対応できる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができるとともに、質疑応答に対応できる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (f) JABEE基準 (g) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2						
教育方法等						
概要	地域の企業や自治体との共同研究を通じて、地域創生に関連する研究活動を行う。専攻科教育の主なねらいである、目標設定から達成まで一貫して遂行できる研究開発能力を持つ技術者の育成を目標に、本科5年次の卒業研究の経験を基礎に、より高度な個別研究を行うために、目標設定から達成まで一貫して遂行できる研究開発能力の基礎力を育成するとともに、地域が抱える問題に関心を持ち、それを解決するための課題解決力も養成する。					
授業の進め方・方法	研究テーマを設定し、特別研究の基礎となる研究を行う。研究テーマは、地域（主に奈良県）の企業や自治体が抱える問題を解決する課題とすること。成果を研究発表要旨にまとめ、研究発表会で発表を行う。これらを通して、論文作成、プレゼンテーション、資料作成の基礎力を育成するとともに、コンピューター利用技術を養成する。合わせて、地域の問題に関心を払う力も養成する。					
注意点	事前学習：与えられた条件下で研究目的を達成するための研究計画を立てる。国内外の関連した文献を調査し、研究の位置づけを行う。 事後展開学習：結果の解析、整理においては、自ら考えてオリジナリティーを出すよう努力する。データ解析、図表作成、参考資料の検索においては積極的にコンピューターを利用し、その技術を習得すること。さらに、地域創生の観点からは、自身の研究が地域創生においてどのように役立つかも考えながら研究に取り組むこと。					
学修単位の履修上の注意						
週ごとの到達目標に関して指導教員の指示に応じて取組むこと。 報告書の完成に至るまで、指導教員との間で十分な報告、連絡、相談ができていること。 発表に関して、十分な推敲を重ねた結論と展望が述べられること。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	全体のガイダンスを実施後、研究室配属を決定することができる。		
		2週	研究テーマの決定	指導教員の指導の下、研究テーマを決定することができる。		
		3週	研究活動の指導	地域（主に奈良県）の企業や自治体が抱える問題を解決することをテーマとした研究活動の中で、以下のような力や姿勢などを身につけることができる。 ①課題を解決するために必要な力 ②情報を収集し、活用する力 ③スケジュールなどを自己管理する力 ④主体的に研究に関わる姿勢 ⑤責任感を持って研究に関わる態度 ⑥研究を円滑に進めるためのコミュニケーションスキル ⑦研究成果を効果的に発信する力 ⑧論理的な思考力 ⑨日本語で論理的な文章をまとめる力 研究報告書を作成の上、研究室毎に研究報告会を実施する。【教員の担当分野】 情報工学基礎：松尾、岡村 計算システム：本間、内田、山口賢、上野 情報処理：松村 電気電子・通信・システム：山口智		
		4週	研究活動の指導	同上		
		5週	研究活動の指導	同上		
		6週	研究活動の指導	同上		

		7週	研究活動の指導	同上
		8週	研究活動の指導	同上
	2ndQ	9週	研究活動の指導	同上
		10週	研究活動の指導	同上
		11週	研究活動の指導	同上
		12週	研究活動の指導	同上
		13週	研究活動の指導	同上
		14週	研究活動の指導	同上
		15週	研究活動の指導	同上
		16週	研究活動の指導	同上
後期	3rdQ	1週	研究活動の指導	同上
		2週	研究活動の指導	同上
		3週	研究活動の指導	同上
		4週	研究活動の指導	同上
		5週	研究活動の指導	同上
		6週	研究活動の指導	同上
		7週	研究活動の指導	同上
		8週	研究活動の指導	同上
	4thQ	9週	研究活動の指導	同上
		10週	研究活動の指導	同上
		11週	研究活動の指導	同上
		12週	研究活動の指導	同上
		13週	研究活動の指導	同上
		14週	研究活動の指導	同上
		15週	研究活動の指導	同上
		16週	研究活動の指導	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	研究に対する取り組み		研究報告書	研究発表	合計
総合評価割合	50		20	30	100
基礎的能力	0		0	0	0
専門的能力	50		20	30	100
分野横断的能力	0		0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	システムデザイン演習	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	6		
教科書/教材	特に指定しない						
担当教員	福岡 寛,土井 滋貴,飯田 賢一,山口 智浩						
到達目標							
1.与えられた課題の解決や実験目的の達成に必要なとなる資料収集や設計製作計画の立案と実行・分析および実験報告を通して、問題解決に必要なエンジニアリングデザインの手法を理解する。 2.グループで協力して取り組み、期限内に計画的に課題を進める方法を理解する。 3.実験報告書ならびに発表を通して、効果的なプレゼンテーションの方法を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自力で各仕様書の作成ができる。			アドバイスがあれば各仕様書の作成ができる。		各仕様書の作成ができない。	
評価項目2	自力で各仕様書に対する適切なレビューができる。			各仕様書に対するレビューができる。		各仕様書に対するレビューができない。	
評価項目3	自力で計画通り計画を進めることができる。			アドバイスがあれば計画通り計画を進めることができる。		計画通り計画を進めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (f) JABEE基準 (g) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2							
教育方法等							
概要	これまでの講義や実験で培われた基礎知識を活かして、課題や問題を解決し、デザインする能力を育成する。ここで言うデザイン能力とは、構想力、問題設定力、種々の学問や技術を総合し応用する能力、創造力、制約条件下で解を見出す能力などのことである。また、自主的、継続的に学習する能力を身に付ける。さらに、最終成果を発表することにより、日本語による表現能力を育成することを目的とする。						
授業の進め方・方法	携帯情報端末を使った制御装置システムの構築を課題にした問題解決型の学習（PBL：Problem Based Learning）を行う。課題に対して、仕様書の作製、システム設計、要素設計を行い、グループにより電子情報システムの構築に取り組む。デザインレビューなども適宜行い、システム開発の流れについて体験的に学習することで、エンジニアリングデザイン能力の育成を行う。システムは、アンドロイド端末、無線LAN機能を搭載した通信モジュール、モーターおよび筐体を基本構成としている。アンドロイド端末のソフトウェア開発、通信、モータ制御回路設計製作、筐体設計製作などを分担して行う。						
注意点	関連科目 学習指針 自己学習	全ての科目で学んだことを発揮して課題に取り組んで欲しい。 指導書・参考資料をもとにして、各自（各班）で実験計画を立て、積極的に取り組むこと。 演習時の問題解決方法の調査や資料収集は自己学習として行う。					
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		演習スケジュールと課題の概要説明		
		2週	テーマ決め		課題テーマのプレゼンテーションと内容検討、班決め		
		3週	仕様書の作成		要求仕様書・技術仕様書の作成		
		4週	仕様書の作成		要求仕様書・技術仕様書の作成		
		5週	デザインレビュー		仕様書に関するレビュー		
		6週	システム設計		各担当に分かれて設計開発を行う		
		7週	試作システム構築		試作システムを構築する		
		8週	試作レビュー		試作品に対するレビューを行う		
	4thQ	9週	システム設計		レビュー結果を受けての設計変更等		
		10週	システムテスト		システムテストを行う		
		11週	テストレビュー		テスト仕様、テスト結果のレビュー		
		12週	システム調整		レビュー結果を受けての設計変更等		
		13週	システム調整		レビュー結果を受けての設計変更等		
		14週	資料作製		発表会の資料の作成		
		15週	プレゼンテーション		成果物のプレゼンテーション		
		16週	全体総括		取り組み全体の総括を行う		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	45	15	0	0	40	100
基礎的能力	0	15	5	0	0	10	30

專門的能力	0	15	5	0	0	15	35
分野横断的能力	0	15	5	0	0	15	35

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	システム設計論 I
科目基礎情報					
科目番号	0017	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	適宜資料を配付する				
担当教員	上野 秀剛				
到達目標					
1.システムに対するユーザの要求を把握し、整理・選択する能力を身につける。 2.システムに対する要求を満たすようなシステムを設計する能力を身につける。 3.システムがユーザの要求や設計を満たしていることをテストする能力を身につける。 4.上記の目標3つについてドキュメントを作成する能力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	システムに対する要求を要求仕様書にまとめることができる。	要求仕様書からシステムに対する要求を理解することができる。	要求仕様書の内容を理解したり記述することができない。		
評価項目2	システムの設計を示したシステム設計書を作成できる。	システム設計書からシステムの設計を理解することができる。	システム設計書の内容を理解したり記述することができない。		
評価項目3	システムに対する適切なテストを設計できる。	テスト仕様書からシステムのテスト方法について理解することができる。	テスト仕様書の内容を理解したり記述することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2					
教育方法等					
概要	システムの開発にはどのようなシステムが求められているのか、どのようにシステムを設計するか、といった開発の上流工程に対する理解が必須である。 本講義ではシステム開発の上流工程である要求抽出と仕様化、システムの設計、および仕様・設計に基づいたシステムのテスト方法について学習する。				
授業の進め方・方法	複数の学生でグループを組み、演習を通じて要求仕様書、システム設計書、テスト仕様書を作成する。また、各ドキュメントに対して相互にレビューを行い改善する。				
注意点	関連科目 ソフトウェア設計、情報工学基礎論、システム設計論Ⅱ 学習指針 1つのシステムについてドキュメントを作成するので、各講義内容を確実に理解すること。 事前学習 講義資料は事前に配布するので、あらかじめ読んでおくこと。 事後展開学習 講義後にグループ単位で各ドキュメントを作成し、期限までに提出すること。				
学修単位の履修上の注意					
講義後に作成する各ドキュメントが成績評価の主たる要素なので、必ず作成・提出すること。					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス システム開発概要	開発のプロセスモデル、ドキュメンテーション、レビューについて理解する	
		2週	要求仕様書	要求抽出、要求のトリアージ、要求の仕様化を理解する	
		3週	要求仕様書	仕様書を作成する	
		4週	要求仕様書	仕様書を作成する	
		5週	要求仕様書	仕様書に対するレビューを行い、改善できる	
		6週	システム設計書	状態遷移図、I/F定義、データ定義、回路図を理解する	
		7週	システム設計書	システム設計書を作成する	
		8週	システム設計書	システム設計書を作成する	
	2ndQ	9週	システム設計書	システム設計書に対するレビューを行い、改善できる	
		10週	システムテスト	ブラックボックス／ホワイトボックステスト、網羅テストを理解する	
		11週	システムテスト	テスト仕様書を作成する	
		12週	システムテスト	テスト仕様書を作成する	
		13週	システムテスト	テスト仕様書に対するレビューを行い、改善できる	
		14週	発表準備	文書化したシステムについて発表する	
		15週	発表	文書化したシステムについて発表する	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	ドキュメント作成	レビュー会	発表	合計	
総合評価割合	70	20	10	100	
基礎的能力	30	10	10	50	
専門的能力	30	10	0	40	
分野横断的能力	10	0	0	10	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	システム設計論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	講師作成の資料による。参考書：神田雄一，はじめての生産システム，森北出版。参考書：福井泰好，入門 信頼性工学（第2版），森北出版。						
担当教員	須田 敦						
到達目標							
1. システムが社会に及ぼしている影響や利用方法を理解する。 2. システムの基本的設計方法の習得ならびに設計に必要なマネージメント方法を理解する。 3. 工学技術者として工学系知識以外に，国連サミットで採択されたSDGs（Sustainable Development Goals，持続可能な開発目標）に代表される国際的なシステムに視野を広げ，工学とのつながりを理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	システムが社会に及ぼしている影響や利用方法を理解でき，それに対する対策を提案できる。			システムが社会に及ぼしている影響や利用方法を理解できる。		システムが社会に及ぼしている影響や利用方法を理解できない。	
評価項目2	システムの基本的設計方法の習得ならびに設計に必要なマネージメント方法を理解でき，実社会で生かせることができる。			システムの基本的設計方法の習得ならびに設計に必要なマネージメント方法を理解できる。		システムの基本的設計方法の習得ならびに設計に必要なマネージメント方法を理解できない。	
評価項目3	工学技術者として工学系知識以外に，様々な取り組みに視野を広げ，工学とのつながりを具体的に表すことができる。			工学技術者として工学系知識以外に，様々な取り組みに視野を広げ，工学とのつながりを表すことができる。		工学技術者として工学系知識以外に，様々な取り組みに視野を広げ，工学とのつながりを表すことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2							
教育方法等							
概要	不連続的に変化し続け，予測困難なこれからの社会において，複雑化した社会問題を解決できる技術者が求められる。本講義では国連サミットで採択されたSDGs（Sustainable Development Goals，持続可能な開発目標）に代表される国際的なシステムに視野を広げ，全体をシステムとしてデザインする力養う。システムは，様々な形によって，人間社会の基盤形成に貢献している。特に，機械技術を利用した機械システムは，人間の様々な活動を支援することを目的として発展している。今日，新しいシステムが次々とデザインされ，暗黙的に経験的知識が加わることによって，さらなるデザインが生み出されている。本講義では，前半でシステムが社会でどう用いられて，どのような効果をあげ，貢献しているかについて概説する。後半は，システムがどのような流れで開発されているかの仕組みと開発で必要となるプロジェクトマネージメントの一端について講義する。						
授業の進め方・方法	機械システムに関するレポートの作成とプレゼン，ならびに，講義内容の確認テストを実施するので，ノートの内容をしっかりと理解すること。						
注意点	関連科目：システム設計論Ⅰ，システムデザイン演習，電子情報設計技術基礎，機械設計技術基礎。 学習指針：現代社会における機械システムの重要性と必要性を行動戦略と合わせて理解することが重要である。 自己学習：自身で機械システムを用いた行動戦略として重要な役割を果たしている例を調査し，それについて考察する。また，その内容を分かりやすく説明できる自己学習を実施すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	システムとは		機械，電気，電子，情報工学とは？システム設計とは？人間の情報収集活動とは何かを理解させる。		
		2週	システム設計と開発 1（プロジェクトの流れ）		システムの設計におけるプロジェクトの流れについて理解させる		
		3週	システム設計と開発 2（成果物の流れ）		システムの設計における成果物の流れについて理解させる		
		4週	システム設計と開発 3（製品の流れ）		システムの設計における製品の流れについて理解させる		
		5週	システム概論Ⅰ		人間の情報収集活動とシステムの定義，成立要件，サブシステム，システムの基本機能について理解させる。		
		6週	システム概論Ⅱ		システムの階層構造，企業活動とシステムの関係性について理解させる。		
		7週	企業活動とシステム		業とは何か？企業は内外情報の管理・統制【企業の課題】をいかに実施しているかについて理解させる。		
		8週	企業のシステム		企業で用いられる情報システム（基本活動システム，管理情報システム）について理解させる。		
	2ndQ	9週	企業経営とシステム		企業経営をする上でシステムが果たす役割について理解させる。		
		10週	情報戦略		情報を活用した企業戦略の立案・推進方法について理解させる。		
		11週	競争戦略		市場競争で勝ち抜くための戦略分析方法について理解させる。		

	12週	事業戦略と経営資源	事業戦略，経営資源について理解させる
	13週	設計手法	全体のシステムの中でエンジニアが実務として行う設計手法の種類について解説する。
	14週	自己学習報告	機械システムを用いた情報戦略に関して自己学習した内容のプレゼンを実施し，プレゼン内容に対する質疑応答を通じて理解度を深める。
	15週	理解度確認	これまでの内容の理解度を確認する。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	25	10	0	0	35
専門的能力	15	10	0	0	25
分野横断的能力	10	10	10	10	40

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	機械設計技術基礎	
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	特に指定しない。配布プリントなどを使用する。参考書：機械設計の基礎知識 (米山猛著、日刊工業) など						
担当教員	廣 和樹,矢野 順彦						
到達目標							
1. 機械を設計する上で必要な、材料、加工、製図 (C A D含む)、機構、計測の知識を習得すること。 2. 機械を設計する上で必要な、解析力学に関する知識を習得すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	材料, 加工, 製図, 材料力学, 機構の基礎を確実に理解している。		材料, 加工, 製図, 材料力学, 機構の基礎を概ね理解している。		材料, 加工, 製図, 材料力学, 機構の基礎を理解していない。		
評価項目2	解析力学に関する基礎を確実に理解している。		解析力学に関する基礎を概ね理解している。		解析力学に関する基礎を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (d-2c) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要	付加価値のあるシステムを創成するために、自身の専攻分野とは異なる技術分野の一つである、機械設計技術の基礎を学習する。機械を設計するのに必要な、材料や加工などの知識や、解析力学に関する知識について、その基礎を理解し、エンジニアとしての幅広い知識や視野を身につけることを期待している。						
授業の進め方・方法	講義方式で授業を行う。内容は機械を設計する上で必要となる基本を学習する。すなわち、機械で使われる材料、機械を製作するために必要な製図や加工法、解析力学についての基礎を講義する。C A Dの演習やレポートを課す。なお前半と後半で担当教員が異なる。						
注意点	機械設計には知識として習得すべき部分と、数学的な記述や物理的なイメージが必要となる部分があるので注意して欲しい。また、日常の機械設計技術について興味を持って欲しい。開講時間数の2/3以上の出席時間数を要する。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		ガイダンスを行う。		
		2週	機械材料の基礎		機械材料の基礎 (鉄鋼材料と熱処理) を学習する。		
		3週	製図と加工学の基礎		製図と加工学 (機械加工と切削加工) の基礎を学習する。		
		4週	材料力学の基礎		材料力学の基礎 (重心とたわみ) を学習する。		
		5週	機械要素の基礎		機械要素の基礎 (ねじ、軸受など) を学習する。		
		6週	機構学の基礎 1		機械のメカニズム (リンク機構) を学習する。		
		7週	機構学の基礎 2		機械のメカニズム (歯車装置) を学習する。		
		8週	中間試験		授業内容を理解し、正しく解答できること。		
	2ndQ	9週	解析力学の基礎 1		解析力学の概要と次元解析の基礎を学習する。		
		10週	解析力学の基礎 2		一般化座標の基礎を学習する。		
		11週	解析力学の基礎 3		ダランベールの原理と変分原理の基礎を学習する。		
		12週	解析力学の基礎 4		ラグランジュ方程式の基礎を学習する。		
		13週	解析力学の基礎 5		ハミルトニアンと正準方程式の基礎を学習する。		
		14週	解析力学の基礎 6		正準変換の基礎を学習する。		
		15週	解析力学の基礎 7		ポアッソン括弧式の基礎を学習する。		
		16週	期末試験		授業内容を理解し、正しく解答できること。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	小テスト	合計	
総合評価割合	50	35	0	0	15	100	
基礎的能力	0	10	0	0	0	10	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	50	25	0	0	15	90	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	研究力向上セミナー I (情報系)
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教員配布の資料, 各学生の発表資料等を適宜配布する					
担当教員	松村 寿枝,山口 賢一					
到達目標						
(1) 研究発表会の司会、ならびにタイムキーパーなどの運営を行うことができる。 (2) 決められた日時までに発表資料を準備し、自分の研究内容を他者に発表することができる。 (3) 発表に対する質問に対して、適切に答えることができる。答えられない場合は、その問題点を理解し、研究計画について説明することができる。 (4) 発表で得られた経験を活かして、研究へフィードバックすることができる。 (5) 他者の研究発表に対して、建設的な意見を述べることができる。 (6) グループワークにおいて、積極的に取り組むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
司会, タイムキーパー等	発表会の運営を滞りなく行い, 活 発な議論を誘導することができる .		発表会の運営を滞りなく行うこと ができる.		発表会の運営を行うことができな い.	
発表者	自らの研究内容を聴講者にわかり 易く発表し, 質問に対して真摯に 回答することができる.		自らの研究内容を発表し, 質問に 対応することができる.		自らの研究内容を発表することが できない.	
質疑, 聴講	多くの発表を聴講し, 質問をする ことができる.		発表を聴講し, 質問をすることが できる.		発表の聴講, 質疑を行うことがで きない.	
グループワーク	与えられた課題に対するグループ ワークに, 積極的に取り組むこと ができる.		与えられた課題に対するグループ ワークに, 取り組むことができる .		グループワークに取り組むことが できない.	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準 (d-2b) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1						
教育方法等						
概要	1・2年次の受講生に対して同時開講することにより、1・2年次の受講生間でプレゼンテーションの技術を共有して、磨くと共に、先輩、卒業生、同級生、下級生の研究テーマに興味を持ち、さまざまな研究の動機、研究／実験手法を知ることにより、工学基礎研究に対する視野を広げ、自己の研究の進め方に反映させる。 ※実務と関係 この科目は、企業で画像処理、音声処理、教育用システムの研究・開発を担当していた教員が、その経験を活かし、研究力向上に必要な内容に関して講義、演習形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法	受講生は、発表、司会、記録を複数回担当する。聴講時には積極的に質問し、討論に参加することで、プレゼンテーションを構成する基本的な役割を一通り体験する。自らの発表に対してその改善点を教員並びに参加者で議論し、より良い発表について検討を行う。また、グループワークでは、研究力を向上させるための取り組みについて議論を行う。					
注意点	関連項目 工学基礎研究、特別研究の内容に深く関わる。 学習指針 発表準備、発表後の対応などを決められたとおりに遂行できるようにすること。 自己学習 資料作成、アンケート集計等を期限内に担当教員まで送付すこと。 事前学習・・・発表者は、プレゼンテーション資料を十分推敲のうえ作成、準備をしておく。 事後展開学習・・・他者の発表を聴講して、よい点を自身の発表に活かすようにつとめる。また、自身の発表については、他者からの意見を参考にして、改善を行うようにする。					
学修単位の履修上の注意						
発表、司会、記録を複数回担当する。そのため、講義を欠席しないように、学会発表、進学就職等で事前に欠席がわかっているときは、他の学生と相談して交代してもらうこと。 自らの発表に対してその改善点を教員並びに参加者で議論し、より良い発表になるようにつとめること。聴講時には積極的に質問し、討論に参加すること。 グループワークでは、研究力を向上させるための積極的に取り組むこと。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	発表技法、グループワークの方法について理解ができる		
		2週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		3週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		4週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		5週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		

		6週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		7週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		8週	グループワーク	グループワークを通じて研究力向上に取り組むことができる
	4thQ	9週	グループワーク	グループワークを通じて研究力向上に取り組むことができる
		10週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		11週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		12週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		13週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		14週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		15週	全体まとめ	後期の議論の論点整理を行うことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	相互評価	教員による評価	授業貢献（司会、運営）	授業貢献（質問）	グループワーク	合計	
総合評価割合	30	40	10	10	10	100	
基礎的能力	5	10	10	5	10	40	
専門的能力	25	30	0	5	0	60	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	実用技術英語（電気電子・情報系）	
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	プリント配布						
担当教員	小坂 洋明						
到達目標							
適切な科学・技術英文が書ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	適切で分かりやすい科学・技術英文の概要が書ける。		適切な科学・技術英文の概要が書ける。		適切な科学・技術英文の概要が書けない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要	国際会議発表（Proceeding, Oral presentation）を念頭に、適切な科学・技術英文執筆ができることを目標に授業を行う。演習を多く取り入れ、学生が自らの英文を改善することを体験し、今後の国際会議発表などに役立てることができるようにする。						
授業の進め方・方法	座学による講義で基本事項を学習する。その後は演習を中心として学生が身を以て学習内容を理解することを促す。						
注意点	関連科目： 特修英語Ⅰ・Ⅱ、研究力向上セミナー（電気電子系）、研究力向上セミナーⅠ・Ⅱ（情報系）、工学基礎研究、地域創生工学研究、特別研究 学習指針： 自分の研究発表に活用できるよう、授業で取り上げる上達のポイントについて、自分の研究の場合はどう適用されるかを常に頭において学習すること。 自己学習： 到達目標を達成するために、講義内容の復習や課題の準備・提出を怠らないこと。 事前学習： 前回までの学習を振り返り、適切な英文作成をするために留意できるポイントを増やした上で授業に望むこと。 事後展開学習： 課題を提示するので、定められた期限までに解いて提出すること。						
学修単位の履修上の注意							
成績評価に課題が含まれていることに注意すること。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		講義の進め方や成績評価などについて理解できる。		
		2週	文章作成の基本ルール、科学・技術論文の構成、卒論概要英訳		科学・技術文書の表現法の概要について説明できる。		
		3週	英文作成のポイント1		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		4週	英文作成のポイント2		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		5週	英文作成のポイント3		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		6週	英文作成のポイント4		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		7週	英文作成のポイント5		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		8週	中間試験		授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。		
	4thQ	9週	英文作成のポイント6		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		10週	英文作成のポイント7		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		11週	英文作成のポイント8		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		12週	英文作成のポイント9		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		13週	英文作成のポイント10		英訳の演習を通して、正しい技術英文を書くための基本ポイントが理解できる。		
		14週	期末試験		授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。		
		15週	答案返却・解説		試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	課題・発表	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	計算理論
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	岡村 真吾					
到達目標						
・オートマトン理論や形式言語理論の基礎を理解する。 ・計算可能性や計算複雑性についての理論を理解し、各種問題について、その計算可能性や計算複雑性を論ずることができるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
オートマトン理論、形式言語理論	与えられた言語が有限オートマトンやプッシュダウンオートマトンで認識可能か否かを判断できる。		有限オートマトンやプッシュダウンオートマトンに関する定義や定理を理解している。		有限オートマトンやプッシュダウンオートマトンに関する定義や定理を理解していない。	
計算可能性	与えられた言語がチューリング機械で判定可能か否かを判断できる。		チューリング機械に関する定義や定理を理解している。		チューリング機械に関する定義や定理を理解していない。	
計算複雑性	与えられた言語が属する計算量のクラスを判断できる。		時間計算量や領域計算量に関する定義や定理を理解している。		時間計算量や領域計算量に関する定義や定理を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準 (d-1) JABEE基準 (d-2a) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 B-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1						
教育方法等						
概要	計算理論の基礎を学習する。					
授業の進め方・方法	計算機を用いて各種問題を解くにあたり、その問題は計算機を用いて解くことができるか、あるいは、解くためにはどのくらいの計算量やメモリ量を必要とするか、といったことを検討するために必要な理論について学習する。					
注意点	【参考書】 「計算理論の基礎 [原著第2版] 1. オートマトンと言語」、Michael Sipser著、太田和夫・田中圭介監訳、阿部正幸・植田広樹・藤岡淳・渡辺治訳、共立出版 「計算理論の基礎 [原著第2版] 2. 計算可能性の理論」、Michael Sipser著、太田和夫・田中圭介監訳、阿部正幸・植田広樹・藤岡淳・渡辺治訳、共立出版 「計算理論の基礎 [原著第2版] 3. 複雑さの理論」、Michael Sipser著、太田和夫・田中圭介監訳、阿部正幸・植田広樹・藤岡淳・渡辺治訳、共立出版 「チューリングの計算理論入門」、高岡詠子著、講談社 【関連科目】 情報数学、データ構造とアルゴリズム、計算機言語処理、情報理論、情報セキュリティ 【学習指針】 できる限り講義時間中に理解することを心がけること。疑問点については、質問するなり文献等を調べるなりして、自ら進んで解決するように努めること。 【事前学習】 事前に配布される講義資料に目を通しておくこと。 【事後展開学習】 各講義終了後速やかに、講義内容において理解できたことと理解できなかったことを整理すること。理解できなかったことについては、次の講義までに解決しておくこと。 【評価割合】 試験の成績（100％）で評価する。ただし、本科目への取り組み姿勢に問題がある場合（講義時間中に取り組むべき演習問題に取り組んでいない、レポート等の課題が未提出、提出物の内容が不十分、など）は減点することがある。					
学修単位の履修上の注意						
講義時間中に提示する演習問題を自学自習時間に解くこと。演習問題の類似問題を試験で出題し、試験の成績として自学自習内容を評価する。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オートマトン(1)		有限オートマトンを理解する。	
		2週	オートマトン(2)		正規表現と正規言語を理解する。	
		3週	オートマトン(3)		文脈自由文法と文脈自由言語を理解する。	
		4週	オートマトン(4)		文脈自由文法の標準形を理解する。	
		5週	オートマトン(5)		プッシュダウンオートマトンを理解する。	
		6週	計算可能性(1)		チューリング機械を理解する。	
		7週	計算可能性(2)		非決定性チューリング機械を理解する。	
		8週	計算可能性(3)		判定可能問題を理解する。	
	2ndQ	9週	計算可能性(4)		判定不能問題を理解する。	
		10週	計算可能性(5)		帰着を理解する。	
		11週	計算複雑性(1)		時間計算量の基礎を理解する。	
		12週	計算複雑性(2)		クラスPとクラスNPを理解する。	
		13週	計算複雑性(3)		NP完全を理解する。	
		14週	計算複雑性(4)		領域計算量を理解する。	
		15週	期末試験		授業内容を理解し、正しく解答する。	
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験		合計	
総合評価割合		100		100	
専門的能力		100		100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	計算機ハードウェア	
科目基礎情報							
科目番号	0023		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	LSI入門 動作原理から論理回路設計まで 寺井 秀一 (著), 福井 正博 (著) 森北出版						
担当教員	山口 賢一						
到達目標							
1. デジタルシステムの設計自動の流れについて説明できる。							
2. ゲート論理を理解し、与えられた仕様に基づくゲートレベル回路が設計、解析できる。							
3. レジスタ転送論理を理解し、与えられた仕様に基づくレジスタ転送レベル回路が設計、解析できる。							
4. 与えられた仕様から高位合成を行い、レジスタ転送レベル回路を得ることができる。							
5. テスト生成を行い、故障シミュレーションを行うことができる。							
6. 簡単な仕様のモデルコンピュータを設計することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	LSIの設計フローについて理解し、説明することができる。		LSIの設計フローについて理解している。		LSIの設計フローについて理解していない。		
評価項目2	LSIを構成する基本素子について理解し、説明することができる。		LSIを構成する基本素子について理解している。		LSIを構成する基本素子について理解していない。		
評価項目3	LSIの設計、製造手法について理解し、説明することができる。		LSIの設計、製造手法について理解している。		LSIの設計、製造手法について理解していない。		
評価項目4	簡単な仕様のCPUを適切なツールを利用して設計、解析することができる。		簡単な仕様のCPUの一部機能を適切なツールを利用して設計、解析することができる。		簡単な機能の回路をツールを利用して設計、解析することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (c) JABEE基準 (d-2a) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 B-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要	計算機を構成するハードウェアについての基礎知識、設計方法および要素技術について理解することを目的とする。						
授業の進め方・方法	与えられたテキスト、およびテーマについて、担当者が事前に調査を行い、資料にまとめて発表を行う。聴講者は、発表に対して適宜質問を行い、理解を深める。教員は、説明が不十分な部分の補足を行う。また、演習として簡単なCPUの作成演習を行い、理解の定着を図る。						
注意点	関連科目 システム設計論、計算理論、ソフトウェア設計と関連が深い。 学習指針 論理回路、計算機アーキテクチャ、論理CADなどの復習が必須である。 自己学習 自身が発表する担当部分はもちろん、全般に予習を行い、授業時間内で理解できるよう努めること。CPU作成については、時間を要するため計画的に取り組むこと						
学修単位の履修上の注意							
事前学習について：これまでに学習した計算機ハードウェアに関連する学習項目が定着するように、事前に復習をしておくこと。また、予め配布された資料等を用いて理解できるところ、理解できないところを明らかにしておくこと。 事後学習について：講義で指定された課題に自分で取り組み、設定された期日までに発表準備、課題提出等を行うこと。 自学自習に対する評価は、資料作成、発表、演習の成果によって確認する。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、ハードウェア設計基礎復習		講義形態の説明を行い、履修するうえで必要となる知識の確認する。		
		2週	LSI設計フロー		LSIの設計フローについて理解し、説明することができる。		
		3週	LSIと現代社会、生活とのかかわり		集積回路の発明と発展、現代社会におけるLSIの重要性やその応用例について説明することができる。		
		4週	LSIと現代社会、生活とのかかわり		LSIにおける消費電力問題の重要性を説明することができる。		
		5週	半導体の原理		ダイオード、バイポーラトランジスタのなりたち、原理、動作を理解し、説明することができる。		
		6週	半導体の原理		デジタル回路としてのトランジスタの働きについて理解し、説明することができる。		
		7週	LSIの回路		MOSトランジスタの構造と動作について理解し、説明することができる。		
		8週	LSIの回路		CMOSトランジスタの構造と動作およびMOS論理回路について理解し、説明することができる。		
	4thQ	9週	LSIの製造		LSIのファブリケーションについて理解し、説明することができる。		

		10週	LSIの製造	LSIの前工程、後工程について理解し、説明することができる。
		11週	LSIの開発と設計	LSIの開発スタイルと実現方法、システム設計について理解し、説明することができる。
		12週	LSIの開発と設計	論理設計、レイアウト設計、テスト設計、について理解し、説明することができる。
		13週	LSIの論理記述言語	ハードウェア記述言語を用いたLSIの設計、シミュレーション手法について理解し、説明することができる。
		14週	LSIの論理記述言語	組合せ回路や順序回路を設計し、FPGAでのLSIの開発を想定した環境を構築、プロトタイプを作成することができる。
		15週	LSIのこれから	LSIの発展と今後の展望について理解し、説明することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	資料作成	発表	演習	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	
基礎的能力	10	10	15	35	
専門的能力	40	10	15	65	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	技術者倫理
科目基礎情報						
科目番号	0025		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	『はじめての工学倫理 第3版』、斎藤了文・坂下浩司編、昭和堂、2014					
担当教員	平田 裕子,藤木 篤					
到達目標						
1. 人間生活や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。 2. 社会が技術者に対して求める倫理観とはどのようなものを把握する。 3. 工学倫理上の事例分析を通じて、倫理的想像力を養う。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		人間生活や科学技術の役割と影響に関心を持ち、自己と他者の双方の幸福を追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養が培われている。	幸福とは何かを追求する姿勢と、技術者として社会に貢献する自覚および素養が培われている。	技術者として社会に貢献する自覚と素養に欠けている。		
評価項目2		社会が技術者に対して求める倫理観を把握した上で、そうした倫理観に沿って自律的に行動できる。	社会が技術者に対して求める倫理観とはどのようなものが把握できている。	社会が技術者に対して求める倫理観とはどのようなものが把握できていない。		
評価項目3		既存事例だけではなく、未知の事例の分析が可能なレベルの倫理的想像力が養われている。	既存事例の分析が可能なレベルの倫理的想像力が養われている。	倫理的想像力が欠けている。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本講義では、技術者へ倫理教育が求められるようになっていった歴史的背景を概観した後、技術者に必要とされる倫理観や、技術者が技術の専門家としての責任を果たそうとするとときに直面するであろう倫理的に困難な状況について学ぶ。最終的に、「公衆の安全・衛生・福利」の確保および増進をはかる際に必然的に求められる、自身の専門分野におけるELSI (Ethical, Legal, and Social Implication [倫理的、法的、社会的諸問題])に関する感受性、および専門技術者としての倫理観を身につけることを、本講義の主たる目的とする。 ※実務との関係 この科目は上記目的に照らして、全 15週のうち3回の授業において、実務経験を有する弁理士を特別講師として招き、知的財産権に関する授業を実施する。					
授業の進め方・方法	講義を中心とする。事例分析の際、グループディスカッションを行う。また、最終の3回は弁理士による知的財産権の講義を行う。					
注意点	関連科目：現代社会と法、政治経済、公共 点数配分：グループディスカッション 30%(10%/回)、学期末レポート70%を目安として評価する。 再試験：行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。					
学修単位の履修上の注意						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス：シラバスをもとにした講義概要の説明、ビデオ教材「技術者倫理学習のスキル」を用いた工学倫理導入	本授業の概要と目的、評価方法等が理解できる。また工学倫理という分野の特性について理解できる。		
		2週	事例分析「スペースシャトルチャレンジャー号爆発墜落事故」	「スペースシャトルチャレンジャー号爆発墜落事故」の分析を通じて、望まざる事件・事故を未然に防ぐために、技術者の倫理観がいかに重要であるかを理解する。		
		3週	製造物に関わる責任：ビデオ教材「ソーラーブラインド」視聴および解説、倫理的意思決定支援ツール「セブンステップガイド(SSG)」概説	"How safe is safe enough?" (どれほどの安全水準であれば十分安全か?) という普遍的問いについて、自身の考え方を整理し、それを他者に説明できる。また倫理的意思決定支援ツール「セブンステップガイド(SSG)」の概要を理解できている。		
		4週	製造物に関わる責任：「ソーラーブラインド」グループ討議	SSGに沿って倫理的意思決定が行われている。それぞれの人物の立場から物事を考えることの大切さが理解できている。またグローバル企業において製造物責任に対処することの難しさが理解できている。		
		5週	技術者に拘わる法規と倫理規則：知的財産権と製造物責任法(PL法)を中心に	技術者を取り巻く法規と倫理規則について、基本的な知識を身につけている。		
		6週	安全性問題と組織内における技術者の行動：ビデオ教材「技術者の自律」視聴と解説	技術者にとって極めて重要とされる「自律」の概念について、自身の考えを整理し、他者に対して説明することができる。		
		7週	安全性問題と組織内における技術者の行動：ビデオ教材「技術者の自律」グループ討議	「自律」という抽象的理念から、具体的行動案が導出できている。		
		8週	リスクの評価と対応：ビデオ教材「ギルベインゴールド」視聴と解説	自律と他律の適切な妥協点と、内部告発が許される条件について、自身の考えを整理し、他者に対して説明することができる。		
	2ndQ	9週	リスクの評価と対応：ビデオ教材「ギルベインゴールド」グループ討議	倫理的想像力をフィージブル(実行可能)な 行動案の策定に昇華させられている。		

	10週	失敗から学ぶことの大切さ：畑村『失敗学のすすめ』『危険学のすすめ』、ペトロスキ『橋はなぜ落ちたか』『失敗学』を中心に	失敗学の基本的主張が理解できている。
	11週	作り出すことと守り続けることの違い：インフラの劣化と事故、維持・保守管理にまつわる様々な困難	非技術者からは理解されにくい維持・保守管理の重要性と、そうした作業に特有の倫理的・経済的・政治的困難について把握できている。またそうした困難な状況を、他者に対して説得力をもって説明できる。
	12週	技術者が幸福を感じる社会を目指して：フローマン「技術者の実存的快樂」、セリグマン「ポジティブ心理学」の考え方を手がかりに	工学倫理は、決して技術者の行動を一方的に制約するための鎖などではなく、技術者自身が幸福な人生を歩むための指針を提供するものであることを理解する。
	13週	知的財産権と技術者倫理 1	「知的財産権（知財）とは何か？」から、技術者倫理に絡めて技術者として知っておきたい知財について学ぶ。
	14週	知的財産権と技術者倫理 2	各法域（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法）の具体的事案について学ぶ。
	15週	知的財産権と技術者倫理 3	各法域（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法）の具体的事案について学ぶ。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	グループディスカッション やプレゼンテーションの取 組を総合的に評価	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	10	10	80	100
基礎的能力	5	5	30	40
専門的能力	0	0	15	15
分野横断的能力	5	5	35	45

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	エンジニアと経営	
科目基礎情報							
科目番号	0027			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	顯谷 智也子						
到達目標							
1.企業における経営理念、ビジョンの重要性を理解する。 2.市場の要求と事業戦略との関係性について述べることができる。 3.ビジネスモデルを構築するための分析手法、フレームワークを理解し、使用することができる。 4.マーケティングとは何かを理解し、マーケティング戦略を立てることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1： 企業における経営理念、ビジョン	実在の企業の経営理念、ビジョンと照らし合わせ、その重要性を述べるができる。			企業における経営理念、ビジョンとは何かを述べるができる。		企業における経営理念、ビジョンとは何かを述べるができない。	
評価項目2： 市場の要求と事業戦略との関係性	企業の実例をもとに、市場からの要求と事業戦略の関係性について述べるができる。			市場からの要求と事業戦略の関係性について述べるができる。		市場の要求と事業戦略との関係性について、述べるができない。	
評価項目3： ビジネスモデルを構築するための分析手法、フレームワーク	有効な分析手法やフレームワークを活用して、実在の企業のビジネスモデルを分析することができる。			ビジネスモデル構築に有効な分析手法やフレームワークについて、その意図や使い方を説明することができる。		ビジネスモデル構築に有効な分析手法やフレームワークについて、その意図や使い方を説明することができない。	
評価項目4： マーケティングの基礎知識	実在の企業のマーケティング戦略をフレームワークを使って分析し、その戦略の有効性を説明することができる。			マーケティングとは何か、またマーケティング戦略を立てる上でのフレームワークについて説明することができる。		マーケティングとは何かについて述べるができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、企業経営の基本要素を学び、経営戦略の意義や企業の役割について理解することを目的とする。企業経営を考察する上で必要となる分析手法やフレームワークなどに触れながら、企業経営を構想する思考力の養成に力点を置く。テキスト、およびケースに基づいた討議形式の授業を通じ、経営戦略の基本的な論理の理解を深める。 ＜実務との関係＞ この科目は、企業でのスマートフォンやタブレットなどの情報機器の開発に携わり管理職経験があり、また加えてMBA（経営管理修士）の専門職学位を有する教員が、その知識と実務経験を活かし、ケーススタディやケースメソッドなどの手法を取り入れ授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	本講義では、企業経営を考察する上で必要とされる知識を修得する。具体的には、企業における経営理念、ビジョンの重要性の理解や、各種の事業分析手法、フレームワークの知識、損益分岐点など財務管理の知識を修得する。また、マーケティングの意義を理解し、マーケティング戦略について考える。						
注意点	しなやかエンジニア教育プログラム アドバンストコースを修了するには、本科目に加え「リーダーシップと意思決定」「ビジネスデザイン」を履修する必要がある。 事前学習：毎回の講義テーマごとに、授業での理解度を高めるために、事前にテーマ分野の情報収拾に努めること。 事後展開学習：各回の講義の後、講義の内容や気づきを振り返り、個人の振り返りシートを記入し、次回の講義までに提出すること。最終の成績評価には、毎週の振り返りシートを考慮する。						
学修単位の履修上の注意							
振り返りレポートには、各自、またグループでの共有によって修得した知識、気づきについて、具体的に明確に記述するように努めること。最終レポートは、レポートのテーマとルーブリックに基づいた評価の観点を事前に提示するので、毎回の振り返りシートをもとに、テーマに沿って各自の考えを整理しておくこと。 ゲストスピーカーの日程都合上、授業内容の順番が変更になる可能性がある。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		講義概要説明		
		2週	経営戦略1：会社の経営理念、ビジョン、事業ドメイン		会社の経営理念、ビジョン理念、事業ドメインとは何かを理解し、事例を通して、事業戦略変遷をたどり、市場の要求と戦略の関係性を理解する。		
		3週	経営戦略2：会社の経営環境分析のフレームワーク		環境分析：企業を取り巻く内部・外部の経営環境を分析するフレームワークを理解する。		
		4週	経営戦略3：成長戦略と製品ポートフォリオ		成長戦略と製品ポートフォリオ：事例を通して、新市場・新製品の組み合わせによる成長戦略、企業が持つ製品の役割を理解する。		
		5週	経営戦略4：競争戦略		競争戦略：業界の競争構造をマイケル・ポーターの5つの競争要因（5フォース分析）のフレームワークで理解する。		
		6週	マーケティング1：マーケティングとは		マーケティングとは何かを理解し、マーケティング戦略をたてる上でのフレームワークの使い方を体感する。		
		7週	マーケティング2：製品戦略		製品が発売されてから、衰退するまでの製品の寿命（ライフサイクル）を考え、それぞれの時期に必要な対策を考える。		
		8週	マーケティング3：ウェブマーケティング		ウェブを使ったマーケティング手法について理解する。		

	2ndQ	9週	リスクマネジメント1	リスクとは何か、リスクマネジメントとは何かを理解し、企業や社会を取り巻くリスクについて考える。
		10週	リスクマネジメント2	リスクアセスメントの手法を理解する。
		11週	チームビルディング	チームビルディングとは何かを、演習を通じて体得する。
		12週	財務管理	売上、利益、費用の関係性を知り、損益計算書の構造、損益分岐点の考え方を理解する
		13週	ゲストスピーカーによる講演	ゲストスピーカーによる講演
		14週	講義振り返り	講義からの学んだことを振り返り、チームで共有する。
		15週	学習成果の自己分析	全講義を振り返り、最終課題をレポートとしてまとめる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	--	--	--	-------	-----

評価割合

	振り返りレポート	期末レポート					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標1～4	60	40	0	0	0	0	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	コミュニケーション英語
科目基礎情報					
科目番号	0030		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	金澤 直志,石水 明香				
到達目標					
This course aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての的確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての的確に話すことができない。
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。
学科の到達目標項目との関係					
JABEE基準 (a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2					
教育方法等					
概要	This course serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.				
授業の進め方・方法	This course is centered on a lecture, and some oral presentations with question and answer session. The contents and schedule are as shown below.				
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class and to prepare presentation slides and scripts about current social issues.				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Class Introduction	To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
	4thQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice	To understand the expression related to social issues	
		12週	A Written Examination	To be assessed each level of understanding	
		13週	Test Review, How to express the thoughts about social issues	To understand how to give a successful presentation	
		14週	Final Presentations (1)	To be assessed each level of presentation	
		15週	Final Presentations (2)	To be assessed each level of presentation	
		16週	Review	Finalizing & Evaluations	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	Written Examination	Oral Presentation	Report	Class participation (Dictation Tests)			合計
総合評価割合	40	30	20	10	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	10	0	0	50
専門的能力	0	0	20	0	0	0	20
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	地域と世界の文化論	
科目基礎情報							
科目番号	0031			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布教材・プリント						
担当教員	松井 真希子						
到達目標							
1. 「文化」の語の概念を理解し、説明することができる。 2. 日本における異文化の受容と展開を理解し、今後異文化と接したときにどのような態度を取れば良いのか、自分自身の意見を説明することができる。 3. 地域の文化と歴史を理解し、その課題を分析することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)			標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	「文化」の語の概念を理解し、類似した概念との違いを明確にしながら説明できる。			「文化」の語の概念を理解し、説明できる。		「文化」の語の概念を理解していない。	
評価項目2	日本における異文化の受容と展開を理解し、今後異文化と接したときにどのような態度を取れば良いのか、自分自身の意見を説明することができる。			日本における異文化の受容と展開を理解し、説明することができる。		日本における異文化の受容と展開を理解していない。	
評価項目3	地域の文化と歴史を踏まえて課題を分析し、解決策を考察することができる。			地域の文化と歴史を理解し、その課題を分析することができる。		地域の文化と歴史を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (a) JABEE基準 (b) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-2							
教育方法等							
概要	現代世界の社会関係は、文化や経済の繋がりが地球的な規模にまで広がり、より多層になっている。その一方で、グローバル化の進行に伴う文化の均質化と多様性の喪失が懸念され、その尊重と見直しが急がれている。本講義では、このような文脈のもと、まず「文化」とは一体何なのかを確認した上で、異文化が流入した際に日本ではどのようにそれを受容し、展開していったのかを歴史的に確認する。さらに、歴史と照らし合わせながらグローバル化の進む現代で異文化に接した際にどのような態度を取ればよいのか、その視座を獲得する。様々な地域の歴史と文化の理解を通じて、地域と世界を同時にみつめていくことの重要性について理解する。						
授業の進め方・方法	授業のテーマに応じて協定校や学内外から様々な特別講師・実務経験者を招いてオムニバス形式の授業を実施する。特別講義については小レポートを課す。講義を踏まえて特定地域の文化・歴史を調べ、レポートを作成する。講義の中で実際に地域の文化施設や歴史遺産を見学するフィールドワークを設けることもある。						
注意点	関連科目：地理、歴史、政治経済、公共、現代社会と法、地域学、人間環境学、技術者倫理（専） 地域社会技術特論、地域創生工学研究とも関連がある。 学習指針：授業をよく聞くこと。 レポートの課題を出すので期日やルールを遵守すること。 自己学習：授業時間以外でも予習・復習を行うこと。 学習目的を達成するために、課題やレポート提出を求める。						
学修単位の履修上の注意							
予習・復習を行うとともに、指示されるレポート課題に取り組むこと。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 「文化」とは		講義の目的・概要を理解し、説明できる。 「文化」の語の概念が説明できる。		
		2週	グローバル化の始まり		世界的なグローバル化の誕生について概略が説明できる。		
		3週	日中関係史		日中関係史の概略が説明できる。		
		4週	日本漢学史		日本漢学史の概略が説明できる。		
		5週	明治期における翻訳事業		明治期における翻訳事業の概略が説明できる。		
		6週	特別講義		特別講義を通じて、地域社会における歴史・文化についてその重要性を理解し、説明できる。		
		7週	特別講義		特別講義を通じて、地域社会における歴史・文化についてその重要性を理解し、説明できる。		
		8週	特別講義		特別講義を通じて、歴史・文化の多様性と重要性を理解し、説明できる。		
	2ndQ	9週	特別講義		特別講義を通じて、歴史・文化の多様性と重要性を理解し、説明できる。		
		10週	「奈良」概論		奈良の歴史・文化の概要を理解し、説明できる。		
		11週	特別講義		特別講義を通じて、歴史・文化の多様性と重要性を理解し、説明できる。		
		12週	奈良の地域活性化		地域社会における経済文化の活性化についてその重要性を理解し、説明できる。		

		13週	特別講義	特別講義を通じて、歴史・文化の多様性と重要性を理解し、説明できる。
		14週	特別講義	特別講義を通じて、歴史・文化の多様性と重要性を理解し、説明できる。
		15週	振り返り・まとめ	授業を振り返り学習内容を確認するとともに、ディスカッションを通じて、自己の考えを論理的に主張し、他者の意見に耳を傾けながら、考察を深めることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末レポート	小レポート	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ビジネスデザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0043			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜プリント資料を配付						
担当教員	顯谷 智也子						
到達目標							
【目的】 本講義では、気づきや発想力を促し多面的な思考力を養い、ビジネスモデル構築を通して社会の流れを理解し、ビジネスデザイン力を高めることを目的とする。講義の中では、「ビジネスモデルキャンパス」のフレームワークを活用し、ビジネスモデルの9つの要素（顧客セグメント(CS)、顧客との関係(CR)、チャネル(CH)、提供価値(VP)、キーアクティビティ(KA)、キーリソース(KR)、キーパートナー(KP)、コスト構造(CS)、収入の流れ(RS))を踏まえてビジネスモデルを構築する能力を育成する。							
【到達目標】 1.ビジネスモデルキャンパスのフレームワークについて、理解する。 2.ビジネスモデルキャンパスを活用する上でのメリットを述べることができる。 3.ビジネスモデルキャンパスを活用して、ビジネスモデルを策定することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル		未到達レベルの目安
フレームワーク（ビジネスモデルキャンパス）の理解	右記に加え、フレームワークの中で自身の専門分野と関連付けて、どの部分で貢献できるかを説明することができる。		右記に加え、フレームワークを活用した具体例を示すことができ、具体例に沿ってその有効性を述べるることができる。		フレームワークの内容と有効性を述べる事が出来る。		フレームワークの内容と有効性を述べる事ができない。
ビジネスモデル構築能力	テーマに沿って、社会の現状や変化を踏まえ、新規事業として実現性のあるビジネスモデルを提案することができる。		テーマに沿って、新規事業として実現性のあるビジネスモデルを提案することができる。		テーマに沿って、フレームワークを活用し、ビジネスモデルを構築することができる。		フレームワークに沿ったビジネスモデル構築ができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、チームで、身近な問題に対し課題設定を行い、ビジネスモデルキャンパスを用いて、9つの要素の相互関係性を確認しながら、視覚的にビジネスモデル構築を体得する。最終成果としては、チーム毎に作成したビジネスモデルの発表を行う。 ＜実務との関係＞ この科目は、企業でのスマートフォンやタブレットなどの情報機器の開発に携わり管理職経験があり、 また加えてMBA（経営管理修士）の専門職学位を有する教員が、その知識と実務経験を活かし授業を進める。						
授業の進め方・方法	本講義では、チームでテーマに沿ってビジネスモデルを構築する。 ビジネスモデル策定においては、「ビジネスモデルキャンパス」のフレームワークを活用し、ビジネスモデルの9つの要素（顧客セグメント(CS)、顧客との関係(CR)、チャネル(CH)、提供価値(VP)、キーアクティビティ(KA)、キーリソース(KR)、キーパートナー(KP)、コスト構造(CS)、収入の流れ(RS))を理解しながら、様々な視点を統合しチームで1つのビジネスプランを構築していく。						
注意点	しなやかエンジニア教育プログラム アドバンストコースを修了するには、本科目に加え「リーダーシップと意思決定」「エンジニアと経営」を履修する必要がある。 ＜事前学習＞ 毎回の授業時にチームで決定した各自の役割分担に基づき作業（資料収集、スライド作成等）を遂行し、次回の授業時に円滑に作業ができるようにする。 ＜事後展開学習＞ チームでの作業となるが、コミュニケーション能力、チームビルディング力に係る役割・作業分担を明確にするために、毎回の講義後に個人の作業振り返りシートを記入・提出する。最終の成績評価には、レポートと毎週の振り返りシートを考慮する。						
学修単位の履修上の注意							
最終レポートは、レポートのテーマとルーブリックに基づいた評価の観点を事前に提示するので、テーマに沿って各自の考えを整理しておくこと。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		講義概要説明、チーム分け、課題設定		
		2週	ビジネスモデルキャンパス		ビジネスモデルキャンパスとは何か、またそのフレームワークの有効性を理解する。		
		3週	顧客セグメント(CS)		ビジネスを行う顧客グループを定義する。		
		4週	提供価値(VP)		特定の顧客に対して、顧客に対してどのような価値を与えるのかを考え、価値を生み出す製品（サービス）について決める。		
		5週	チャネル(CH)		顧客に製品（サービス）の価値を届けるために、どのようにコミュニケーションを図るかについて決める。		
		6週	顧客との関係(CR)		顧客とどのような関係性を築くかを決める。		
		7週	バリュープロポジションキャンパス		バリュープロポジションキャンパスとは何かを理解し、顧客への提供価値についてバリュープロポジションキャンパスを作成する。		
		8週	キーリソース(KR)		ビジネスモデル実現のために必要な資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を決める。		

2ndQ	9週	キーマクティビティ(KA) キーパートナー(KP)	ビジネスモデル実現のために、あなた（の会社）が取り組まなければならない活動と、必要なパートナーを決める。
	10週	コスト構造(CS) 収入の流れ(RS)	誰から、いくら、どのようにお金を得て、商品売るためにどのようなお金がかかるのか、収益性を考える
	11週	最終発表会準備 1	最終発表に向けてビジネスモデルをブラッシュアップする。
	12週	最終発表会準備 2	最終発表に向けてビジネスモデルをブラッシュアップする。
	13週	最終成果発表	作成したビジネスモデルを、チーム毎に発表する。
	14週	講義振り返り	講義からの学んだことを振り返り、チームで共有する。
	15週	学習成果の自己分析	全講義を振り返り、最終課題に沿ってレポートにまとめる
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	期末レポート	発表	継続的な取り組み姿勢				合計
総合評価割合	40	50	10	0	0	0	100
フレームワークの理解	20	25	0	0	0	0	45
ビジネスモデル構築能力	20	25	10	0	0	0	55
	0	0	0	0	0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別研究
科目基礎情報						
科目番号	0036		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 10		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	10		
教科書/教材	特になし					
担当教員						
到達目標						
自ら研究計画を立案、実施し、研究成果を論文にまとめて発表会（公開）において報告する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
取組	自ら考えて研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組み、結果を得ることができる。		指導教員の指示に従い、研究への十分な準備を行うことができるとともに、積極的に研究に取り組むことができる。		研究への十分な準備ができず、積極的に研究に取り組むことができない。	
研究報告（報告書・発表等）	また、自らの研究成果について、わかりやすい文章構成かつ正しい図表表現により報告書にまとめることができる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができるとともに、質疑応答に対応できる。		自らの研究成果についてまとめ、発表することができない。 また、自らの研究成果について、報告書にまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (f) JABEE基準 (g) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2						
教育方法等						
概要	研究成果は、最終1回の発表会を実施し、最終的に論文としてまとめさせる。また、この過程を通じて論文作成やプレゼンテーションの技術を実践指導すると共に、学会発表についても支援する。					
授業の進め方・方法	学生1人1人に個別の研究テーマを与え、研究活動に取り組ませる。指導教員を定め、日々の研究活動や、発表会での発表や報告書の作成について個別に指導する。					
注意点	事前学習：研究テーマに関連した国内外の文献調査を積極的に行うこと 事後展開学習：研究計画に基づいて自主的かつ積極的に進めるとともに、常に進捗状況を指導教員に報告し、十分な討論を行うこと。					
学修単位の履修上の注意						
週ごとの到達目標に関して指導教員の指示に応じて取り組むこと。 報告書の完成に至るまで、指導教員との間で十分な報告、連絡、相談ができていないこと。 発表に関して、十分な推敲を重ねた結論と展望が述べられること。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		2週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		3週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		4週	各指導教員による研究指導		進捗状況を確認し、プロトタイプの作成を計画することができる。	
		5週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		6週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		7週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		8週	各指導教員による研究指導		プロトタイプの評価、問題点の再検討。	
	2ndQ	9週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		10週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		11週	実験結果のまとめ		秋の学会発表、学位授与レポート用に実験結果をまとめることができる。	
		12週	実験結果のまとめ		秋の学会発表、学位授与レポート用に実験結果をまとめることができる。	
		13週	実験結果のまとめ		秋の学会発表、学位授与レポート用に実験結果をまとめることができる。	
		14週	レポート指導		秋の学会発表、学位授与レポートの書き方指導	
		15週	レポート指導		秋の学会発表、学位授与レポートの書き方指導	
		16週	レポート指導		秋の学会発表、学位授与レポートの書き方指導	
後期	3rdQ	1週	進捗確認		進捗状況を確認し、プロトタイプの作成を計画することができる	
		2週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		3週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		4週	実験、プログラミング		プログラムを作成し、実験を実施することができる。	
		5週	各指導教員による研究指導		進捗状況を確認し、プロトタイプの作成を計画することができる	

		6週	実験、プログラミング	プログラムを作成し、実験を実施することができる。
		7週	実験、プログラミング	プログラムを作成し、実験を実施することができる。
		8週	各指導教員による研究指導	完成品による実験、問題点の再検討。
	4thQ	9週	実験結果のまとめ	実験結果のまとめと考察。
		10週	実験結果のまとめ	実験結果のまとめと考察。
		11週	特別研究論文作成	特別研究論文の執筆
		12週	特別研究論文作成	特別研究論文の執筆
		13週	特別研究論文作成	特別研究論文の執筆
		14週	特別研究発表会	研究発表会で成果報告
		15週	論文修正	論文を修正して査読委員から了解をとる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		研究に対する取り組み	研究論文	研究発表	合計
総合評価割合		30	40	30	100
基礎的能力		0	0	0	0
専門的能力		30	40	30	100
分野横断的能力		0	0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度（2022年度）		授業科目	研究力向上セミナーⅡ（情報系）
科目基礎情報						
科目番号	0037		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻（情報システムコース）		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教員配布の資料，各学生の発表資料等を適宜配布する					
担当教員	松村 寿枝,山口 賢一					
到達目標						
（1）研究発表会の司会、ならびにタイムキーパーなどの運営を行うことができる。 （2）決められた日時までに発表資料を準備し、自分の研究内容を他者に発表することができる。 （3）発表に対する質問に対して、適切に答えることができる。答えられない場合は、その問題点を理解し、研究計画について説明することができる。 （4）発表で得られた経験を活かして、研究へフィードバックすることができる。 （5）他者の研究発表に対して、建設的な意見を述べることができる。 （6）グループワークにおいて、積極的に取り組むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
司会，タイムキーパー等	発表会の運営を滞りなく行い，活発な議論を誘導することができる。		発表会の運営を滞りなく行うことができる。		発表会の運営を行うことができない。	
発表者	自らの研究内容を聴講者にわかり易く発表し，質問に対して真摯に回答することができる。		自らの研究内容を発表し，質問に対応することができる。		自らの研究内容を発表することができない。	
質疑，聴講	多くの発表を聴講し，質問をすることができる。		発表を聴講し，質問をすることができる。		発表の聴講，質疑を行うことができない。	
グループワーク	与えられた課題に対するグループワークに，積極的に取り組むことができる。		与えられた課題に対するグループワークに，取り組むことができる。		グループワークに取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準（d-2b）JABEE基準（f）システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1						
教育方法等						
概要	1・2年次の受講生に対して同時開講することにより、1・2年次の受講生間でプレゼンテーションの技術を共有して、磨くと共に、先輩、卒業生、同級生、下級生の研究テーマに興味を持ち、さまざまな研究の動機、研究／実験手法を知ることにより、工学基礎研究に対する視野を広げ、自己の研究の進め方に反映させる。 ※実務と関係 この科目は、企業で画像処理、音声処理、教育用システムの研究・開発を担当していた教員が、その経験を活かし、研究力向上に必要な内容に関して講義、演習形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法	受講生は、発表、司会、記録を複数回担当する。聴講時には積極的に質問し、討論に参加することで、プレゼンテーションを構成する基本的な役割を一通り体験する。自らの発表に対してその改善点を教員並びに参加者で議論し、より良い発表について検討を行う。また、グループワークでは、研究力を向上させるための取り組みについて議論を行う。					
注意点	関連項目 工学基礎研究、特別研究の内容に深く関わる。 学習指針 発表準備、発表後の対応などを決められたとおりに遂行できるようにすること。 自己学習 資料作成、アンケート集計等を期限内に担当教員まで送付すこと。 事前学習・・・発表者は、プレゼンテーション資料を十分推敲のうえ作成、準備をしておく。 事後展開学習・・・他者の発表を聴講して、よい点を自身の発表に活かすようにつとめる。また、自身の発表については、他者からの意見を参考にして、改善を行うようにする。					
学修単位の履修上の注意						
発表、司会、記録を複数回担当する。そのため、講義を欠席しないように、学会発表、進学就職等で事前に欠席がわかっているときは、他の学生と相談して交代してもらうこと。 自らの発表に対してその改善点を教員並びに参加者で議論し、より良い発表になるようにつとめること。聴講時には積極的に質問し、討論に参加すること。 グループワークでは、研究力を向上させるための積極的に取り組むこと。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	発表技法、グループワークの方法について理解ができる		
		2週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		3週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		4週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		
		5週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる		

		6週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		7週	2年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		8週	グループワーク	グループワークを通じて研究力向上に取り組むことができる
	4thQ	9週	グループワーク	グループワークを通じて研究力向上に取り組むことができる
		10週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		11週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		12週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		13週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		14週	1年生発表議論	発表に対して、内容、発表技法等の議論を行うことができる
		15週	全体まとめ	後期の議論の論点整理を行うことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	相互評価	教員による評価	授業貢献（司会、運営）	授業貢献（質問）	グループワーク	合計
総合評価割合	30	40	10	10	10	100
基礎的能力	5	10	10	5	10	40
専門的能力	25	30	0	5	0	60

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	計測工学特論
科目基礎情報						
科目番号	0038		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	玉木 隆幸					
到達目標						
1) 干渉、回折等の光学の基本的な概念を理解する 2) 各種測定法の原理とその特徴を理解する 3) レーザーの特性を用いた測定法を通じた計測システムの概念を理解する						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
干渉、回折等の光学の基本的な概念の理解		計測の必要性と概略に、レーザーの発振原理とその特性、およびレーザー使用上の留意点、波の表現方法と光の干渉、回折現象について正しく説明することができ干渉、回折等の光学の基本的な概念を完全に理解している	計測の必要性と概略に、レーザーの発振原理とその特性、およびレーザー使用上の留意点、波の表現方法と光の干渉、回折現象について説明することができ、干渉、回折等の光学の基本的な概念を理解している	計測の必要性と概略に、レーザーの発振原理とその特性、およびレーザー使用上の留意点、波の表現方法と光の干渉、回折現象について説明することができず、干渉、回折等の光学の基本的な概念も理解していない		
各種測定法の原理とその特徴の理解		基本的な各種干渉計を用いた長さの測定、位相変調干渉法、FFT法による高精度な長さの測定、FM干渉法、光ヘテロダイン干渉法による高精度な長さの測定、基本的な干渉計による表面形状の測定、縞走査干渉法による表面形状の高精度測定、ホログラフィ干渉法の原理、スペックル干渉法の原理、レーザー・ドップラ速度計による速度の測定について正しく説明することができ、各種測定法の原理とその特徴を完全に理解している	基本的な各種干渉計を用いた長さの測定、位相変調干渉法、FFT法による高精度な長さの測定、FM干渉法、光ヘテロダイン干渉法による高精度な長さの測定、基本的な干渉計による表面形状の測定、縞走査干渉法による表面形状の高精度測定、ホログラフィ干渉法の原理、スペックル干渉法の原理、レーザー・ドップラ速度計による速度の測定について説明することができ、各種測定法の原理とその特徴を理解している	基本的な各種干渉計を用いた長さの測定、位相変調干渉法、FFT法による高精度な長さの測定、FM干渉法、光ヘテロダイン干渉法による高精度な長さの測定、基本的な干渉計による表面形状の測定、縞走査干渉法による表面形状の高精度測定、ホログラフィ干渉法の原理、スペックル干渉法の原理、レーザー・ドップラ速度計による速度の測定について説明できず、各種測定法の原理とその特徴も理解していない		
レーザーの特性を用いた測定法を通じた計測システムの概念の理解		レーザーを用いた光計測の実際の応用例についての報告と討議を充実に行うことができ、レーザーの特性を用いた測定法を通じた計測システムの概念を完全に理解している	レーザーを用いた光計測の実際の応用例についての報告と討議を行うことができ、レーザーの特性を用いた測定法を通じた計測システムの概念を理解している	レーザーを用いた光計測の実際の応用例についての報告と討議を行うことができず、レーザーの特性を用いた測定法を通じた計測システムの概念を理解していない		
学科の到達目標項目との関係						
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (d-2b) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1						
教育方法等						
概要	光学およびレーザーの基礎を学習し、レーザーの特性を用いた長さ、形状、変位、速度等の測定法を理解する。さらに、各種測定方法について理解し、計測工学の基本的な概念である計測システムとしての構成とその特性、信号処理の方法、誤差と精度等の理解を深める。					
授業の進め方・方法	講義を行うとともに、各自レーザーを用いた各種測定法について調査した内容の発表、説明をする機会を適宜設ける。積極的に文献調査等を行い、発表をするとともに、討議、質問を行うこと。					
注意点	光学についての簡単な復習は行いが、習得している波動の性質と光の干渉、回折等に関する基本的な事項については各自復習しておくこと。 事前学習：受講前に次の授業内容・方法に記載された内容について調べておくこと 事後展開学習：授業内容に関連する課題に取り組み、次の授業時に提出すること					
学修単位の履修上の注意						
成績評価における課題により、自学自習の取り組みを評価する						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	計測の基礎	計測の必要性と概略について理解できる		
		2週	レーザーの基礎	光計測の光源としてのガスレーザー、半導体レーザーの発振原理とその特性、および、レーザー使用上の留意点について理解することができる		
		3週	光学の基礎	光計測に必要なとなる光波の表現方法と光の干渉、回折現象について理解することができる		
		4週	長さの計測 (1)	基本的な各種干渉計を用いた長さの測定について理解することができる		
		5週	長さの測定 (2)	位相変調干渉法、FFT法による高精度な長さの測定について理解することができる		
		6週	長さの測定 (3)	FM干渉法、光ヘテロダイン干渉法による高精度な長さの測定について理解することができる		
		7週	表面形状の測定 (1)	基本的な干渉計による表面形状の測定について理解することができる		

		8週	表面形状の測定（２）	縞走査干渉法による表面形状の高精度測定について理解することができる
	2ndQ	9週	ホログラフィ	ホログラフィとホログラフィ干渉法の原理について理解することができる
		10週	変位、変形の測定（１）	ホログラフィ干渉法の２重露光法による変位、変形等の測定について理解することができる
		11週	変位、変形の測定（２）	スペックル干渉法の原理とスペックル干渉法による変位、変形等の測定について理解することができる
		12週	振動の測定	ホログラフィ干渉法（時間平均法）および光ヘテロダイン法による振動の測定について理解することができる
		13週	速度の測定	レーザー・ドップラ速度計による速度の測定について理解することができる
		14週	レーザー計測の応用例（１）	レーザーを用いた光計測の実際の応用例についての報告と討議を行うことができる
		15週	レーザー計測の応用例（２）	レーザーを用いた光計測の実際の応用例についての報告と討議を行うことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	発表	討議	課題				合計
総合評価割合	40	20	40	0	0	0	100
基礎的能力	20	10	20	0	0	0	50
専門的能力	20	10	20	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ヒューマンインターフェース	
科目基礎情報							
科目番号	0039			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	ノート講義 (講義時に適宜資料を配付する)						
担当教員	櫛 弘明						
到達目標							
人とコンピュータのインタラクションを円滑にする方法を理解する。また、適切な応用例を具体的に示せるようにする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
人とコンピュータのインタラクション		問題を一般化し応用例について説明できる。		授業の内容を十分理解し過不足なく理解している。		理解が十分でなく説明できない	
人と機械の関係について		適切なキーワードを使って説明できる		主要なポイントを理解している		理解が不十分で説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (e) JABEE基準 (h) JABEE基準 (i) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2							
教育方法等							
概要	人間の行動や考え方を機械やコンピュータに合わせるのではなく、機械の動作やコンピュータのアルゴリズムを人間に合うように設計し使うことが重要であることが認識され、実社会の様々な所でインタフェースの重要性が取り上げられている。本講義では、これらについて説明する。						
授業の進め方・方法	ノート講義を基本とし、適宜資料を配付する。また講義テーマに沿ったプレゼンテーションを行ってもらうので、各自講義内容をまとめておくように。						
注意点	目標を達成するには、授業以外にも予習復習を怠らないこと。また、十分に準備して授業に臨むこと。 事前学習：受講前にシラバスの授業内容を事前に予習しておくこと 事後展開学習：講義に関連する問題を課題として設定するので、自分で解き、次回授業時に提出する						
学修単位の履修上の注意							
成績評価における課題により、自学自習の取り組みを評価する。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	ヒューマンインタフェースの概要		ヒューマンインタフェースの定義について学ぶ		
		2週	ヒューマンインタフェースの変遷		ヒューマンインタフェースの歴史について学ぶ		
		3週	身体のバイオメカニクス		冗長自由度とマッピング、知覚と操作について学ぶ		
		4週	ヒューマンモデル		ユーザ行為に関する7段階モデルについて学ぶ		
		5週	アフォーダンスとメンタルモデル		外界にある知識と概念モデルについて学ぶ		
		6週	認知的インタフェースと感性的インタフェース		認知的インタフェースと感性的インタフェースについて学ぶ		
		7週	感性工学		感性工学について学ぶ		
		8週	感覚に関する法則		視覚に関して錯覚や盲点について学ぶ。また、音の知覚や錯聴について学ぶ		
	2ndQ	9週	学習と記憶		エビングハウスの忘却曲線など記憶について学ぶ		
		10週	学習とインタラクション		インタラクションを重視した学習について学ぶ		
		11週	注意資源理論		注意資源は有限であり、覚醒水準によってその資源量が異なることを学ぶ		
		12週	ヒューマンエラー		ヒューマンエラーの定義と分類について説明する		
		13週	ユーザビリティ		「使いにくいもの」「わかりにくいもの」を「使いやすく」「わかりやすく」することについて学ぶ		
		14週	ユーザ中心設計・人間中心設計		ユーザ中心設計と人間中心設計についてその概念を学ぶ		
		15週	インタフェース開発手法		インタフェース開発手法について学ぶ		
		16週	期末試験		理解度を確認する		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	10	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	10	0	10	50
専門的能力	40	10	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ソフトウェア設計	
科目基礎情報							
科目番号	0040		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	適宜配布						
担当教員	上野 秀剛						
到達目標							
1.ソフトウェア開発における要求抽出から設計までの流れとその作業を理解できる. 2.UPに基づいたモデルの作成と改善ができる. 3.ソフトウェアの仕様記述言語の1つであるUMLについて基本的な読み書きができる.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ユースケース図やユースケース記述を用いてシステムに対する要求を整理できる.		ユースケース図やユースケース記述を用いて整理された要求を理解できる.		ユースケース図やユースケース記述を理解できない.	
評価項目2		クラス図やオブジェクト図, シーケンス図を用いてクラス設計ができる.		クラス図やオブジェクト図, シーケンス図からクラス設計を理解できる.		クラス図やオブジェクト図, シーケンス図を理解できない.	
評価項目3		アクティビティ図や状態遷移図を用いてシステムの挙動を設計できる.		アクティビティ図や状態遷移図からシステムの挙動を理解できる.		アクティビティ図や状態遷移図を理解できない.	
評価項目4		複数のUML間で整合性のとれた設計ができる.		複数のUMLからシステムの全体像を理解できる.		複数のUML間の関係性を理解できない.	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-1) JABEE基準 (d-2a) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 B-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1							
教育方法等							
概要		ソフトウェア開発に必要な、顧客の要求から仕様を分析し、システムの実現に必要なモデル構築とアーキテクチャ設計を適切に行うための知識・技術として以下を身につけることを目的とする. ・要求から仕様を分析し、モデリングと設計を行うための知識・技術 ・Unified Process (UP)を用いたモデル改善のための知識・技術 ・Unified Modeling Language (UML)を使ったモデルの表現・理解に必要な知識					
授業の進め方・方法		毎回の講義で、概念についての座学を行った後、演習・課題を通じた実践を行う. 講義ではUMLの記法やルールよりもモデリング・設計における概念や考え方に重点を置くため、実践の中で積極的に質問・相談することを推奨する.					
注意点		関連科目 システム設計論Ⅰ・Ⅱ, システムデザイン演習 学習指針 講義中は他の学生と相談し、より良いモデル・設計の作成を推奨する 事前学習 講義資料は事前に配布するので、あらかじめ読んでおくこと. 事後展開学習 毎週の講義で演習を出すので、次回講義までに自分で解くこと.					
学修単位の履修上の注意							
毎週の演習が成績評価に反映されるため忘れずに提出すること.							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	要求分析		ガイダンス, ユースケース・アクターの抽出を理解する		
		2週	要求分析		ユースケース図を理解する		
		3週	要求分析		ユースケース記述を理解する		
		4週	分析・モデリング		クラス図, オブジェクト図を理解する		
		5週	分析・モデリング		関連, 集約, コンポジション, 汎化を理解する		
		6週	分析・モデリング		ユースケース実現のモデリング, シーケンス図を理解する		
		7週	分析・モデリング		クラス・操作・属性の抽出, 関連クラスを理解する		
		8週	分析・モデリング		アクティビティ図, 状態遷移図を理解する		
	2ndQ	9週	中間演習		中間テスト		
		10週	アーキテクチャ		配置図, パッケージ図, 代表的なアーキテクチャを理解する		
		11週	アーキテクチャ		配置図, パッケージ図, 代表的なアーキテクチャを理解する		
		12週	総合演習		要求分析から設計の流れを理解し, 必要な文書を作成できる		

		13週	総合演習	要求分析から設計の流れを理解し，必要な文書を作成できる		
		14週	まとめ	講義内容について復習し理解を深める		
		15週	期末テスト	期末テスト		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		中間テスト	期末テスト	提出物	合計	
総合評価割合		40	40	20	100	
基礎的能力		20	20	20	60	
専門的能力		20	20	0	40	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	情報工学基礎論
科目基礎情報					
科目番号	0041		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	山口 智浩				
到達目標					
1. ソーシャルネットワーク・ITの要素技術についてわかりやすく資料にまとめ、説明することができる。 2. ソーシャルネットワーク・ITに関する内容について、疑問点を述べ、討議することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ソーシャルネットワーク・ITの要素技術の基本的な内容および最近の応用例などの発展的内容についてわかりやすく資料にまとめ、説明することができる。		ソーシャルネットワーク・ITの要素技術の基本的な内容についてわかりやすく資料にまとめ、説明することができる。		ソーシャルネットワーク・ITの要素技術の基本的な内容についてわかりやすく資料にまとめ、説明することができない。
評価項目2	ソーシャルネットワーク・ITの要素技術に関する基本的小および発展的な内容について、疑問点を述べ、討議することができる。		ソーシャルネットワーク・ITの要素技術に関する基本的な内容について、疑問点を述べ、討議することができる。		ソーシャルネットワーク・ITの要素技術に関する基本的な内容について、疑問点を述べ、討議することができない。
学科の到達目標項目との関係					
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (d-2b) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1					
教育方法等					
概要	インターネット上でのソーシャルネットワーク・ITは私たちの日常生活に広がるだけでなく、現代社会のインフラ（基盤）を支える最も重要な技術のひとつとなりつつある。IT産業に限らず、各種業界においてソーシャルネットワーク・ITの活用技術が広まってきた。本講義では、今後の産業社会における社会基盤としてのソーシャルネットワーク・ITの役割や価値について、業界のビジネスモデル、具体的な事例と照らし合わせつつ考え、課題の発見から技術の開発、システムの設計について学ぶ。				
授業の進め方・方法	ソーシャルネットワーク・ITの活用技術として、まず前提となるWeb 2.0 の特徴と要素技術について説明する。受講者はソーシャルゲーム型ビジネスモデルおよびITについて、事例、今後の可能性と主要な問題点についてプレゼン発表を行い、議論に参加する。				
注意点	・事前学習・・・あらかじめ講義内容に該当する部分のテキスト(補助教材)を読み、理解できるところ、理解できないところを明らかにしておく。授業中に質問、議論できるように教科書の下読みをしておいてください。質問したい内容をあらかじめ下書きしておく。遠隔授業時にチャットで質問投稿しやすくなります。 ・事後展開学習・・・講義内容について本人が質問した内容とそれへの回答、質問したかった内容等をまとめて毎回の授業アンケートformsに記入し、授業当日の17時までに365forms回答として提出する。 ----- 教科書は使用しない。各自ノートを作成すること。プレゼン発表、議論には積極的に参加すること。 〔補助教材・参考書〕池田、山崎、次世代共創マーケティング、SB Creative., 2014 深田 浩嗣、ソーシャルゲームはなぜハマるのか、ゲーミフィケーションが変える顧客満足, 2011 長尾、清永、「仕事のゲーム化」でやる気モードに変える 経営に活かすゲーミフィケーションの考え方と実践事例, 2013 ポッツマン、シェア、共有からビジネスを生み出す新戦略, 2010 ピンク、モチベーション3.0, 持続する「やる気」をいかに引き出すか, 2010				
学修単位の履修上の注意					
1. 担当範囲の自学自習部分の評価 (1) 発表(20%)：担当範囲のプレゼン(説明)の評価 担当範囲のプレゼン発表による説明の良(わかりやすさ、説明の量、説明の質それぞれの適切さ)について評価する。 (2) ポートフォリオ(40%)：課題レポートによる評価 担当範囲について各自で自学自習した内容をpower pointスライドにまとめて、課題レポートして提出された内容の評価する。 2. 担当範囲以外の自学自習部分の評価 (3) その他(40%)：毎回の授業後のQ&Aシートによる評価 本人以外の発表内容について、本人の質問の有無、質問・議論した場合にはその内容とそれに対する発表者、教員からの回答をQ&Aシートに毎回記入し、授業後に提出されたものを評価する。					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ソーシャルメディアの発展の歴史	ソーシャルメディアの発展の歴史について説明することができる。	
		2週	Web2.0ミームマップ	Web2.0ミームマップについて説明することができる。	
		3週	Web2.0以降のソーシャルメディア	Web2.0以降のソーシャルメディアについて説明することができる。	
		4週	ソーシャルメディアの応用	ソーシャルメディアの応用について説明することができる。	
		5週	ソーシャルメディアのサービス連携	ソーシャルメディアのサービス連携について説明することができる。	
		6週	ソーシャルメディアの今後	ソーシャルメディアの今後について説明することができる。	
		7週	ソーシャルゲームの歴史	ソーシャルゲームの歴史について説明することができる。	

		8週	ソーシャルゲームの基本的枠組み	ソーシャルゲームの基本的枠組みについて説明することができる。
	2ndQ	9週	ソーシャルゲームでのプレイヤーの分類	ソーシャルゲームでのプレイヤーの分類について説明することができる。
		10週	ソーシャルゲームでの目標設計	ソーシャルゲームでの目標設計について説明することができる。
		11週	ゲーミフィケーションの4条件	ゲーミフィケーションの4条件について説明することができる。
		12週	ゲーミフィケーションフレームワーク	ゲーミフィケーションフレームワークについて説明することができる。
		13週	動機付け, 自己決定理論	動機付け, 自己決定理論について説明することができる。
		14週	プレイサイクルデザイン	プレイサイクルデザインについて説明することができる。
		15週	まとめ	評価結果を見直し, 理解が不十分な点を解消する。
		16週	学年末テスト	実施しない

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	40	40	100
基礎的能力	0	10	0	0	20	10	40
専門的能力	0	10	0	0	20	30	60

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	メディアシステム論	
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	必要に応じて適宜授業資料をWebにて公開する。						
担当教員	松村 寿枝						
到達目標							
それぞれのメディアの特徴とそれを利用したシステムについて理解すること。 メディアシステムの基礎的技術および実装技術を理解すること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		メディアとは何かその特徴について説明でき、具体的なシステムについてその特徴について説明できる。		メディアとは何かその特徴について説明できる。		メディアとは何かを正しく説明できない。	
評価項目2		メディアシステムに使われている実装技術を説明でき、具体的なシステムについてより詳しく説明できる。		メディアシステムに使われている基礎的な技術を説明できる。		メディアシステムに使われている基礎的な技術を正しく説明できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (g) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-2							
教育方法等							
概要	音声、画像に代表されるメディアは、人間の情報伝達において重要な役割を担っている。 本講義では、このメディアを利用したシステムについて講義を行い、メディアシステムを構成する基礎技術と実装技術について理解することを目的とする。						
授業の進め方・方法	本講義では、メディアとはなにか、更にメディアシステムの基礎技術および実装技術について講義を行う。 各自実施するプレゼンテーションの準備を行うこと。 また、課題については別途指定する期日までに解いて提出すること。						
注意点	講義中に演習を出し、講義中に扱ったテーマに関する課題およびプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションについての学生間の相互評価も評価の対象にするので、講義には必ず出席し、積極的に取り組むこと。 自己学習 事前学習・・・あらかじめ講義内容に該当する部分を調べて関連事項について理解しておく。課題発表の準備をしっかりしておく 事後展開学習・・・講義で使用したパワーポイント資料を読んで復習をする。。						
学修単位の履修上の注意							
事前に講義内容に該当する部分に関して調べておくこと。課題発表の準備をしっかりしておく。 授業後は、講義で使用した資料をよく読み、わからない点についてはオフィスアワーの時間などを利用して質問し、理解を深めておくこと。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	メディアシステムとは？ メディアの考え方、メディアシステムとは何かについて説明する。		メディアとメディアシステムとは何かを説明できる。 メディアの考え方とメディアシステムとは何かを説明できる。		
		2週	マルチメディアとビジネス、知的所有権について説明する。		マルチメディアとビジネス、知的所有権について理解し、説明できる。		
		3週	物理量と波、マルチメディア信号の取り扱いなどについて説明する。		物理量と波の違い、信号の取り扱いについて説明できる。		
		4週	心理量の尺度化や精神物理学的測定法について説明する。		心理量の尺度値化や物理的測定法について説明できる。		
		5週	音声と音楽信号（音響信号）について説明する。		音声と音響信号について説明できる。		
		6週	聴覚と視覚 システム設計における人の感覚の性質への留意点について説明する。		聴覚と視覚、人間の感覚の性質への留意点について説明できる。		
		7週	音響信号の伝送とラジオおよび電話について説明する。		音響信号の伝送とラジオおよび電話について仕組みを説明できる。		
		8週	音声に特化した信号処理ディジタル伝送と携帯電話方式について説明する。		音声に特化した信号処理ディジタル伝送と携帯電話方式について説明できる。		
	4thQ	9週	音声信号のディジタル化とCD、DVD、Blu-rayについて説明する。		音声信号のディジタル化とCD、DVD、Blu-rayについて説明できる。		
		10週	ディジタル信号処理応用の基本について説明する。		ディジタル信号処理応用の基本について説明できる。		
		11週	3次元CG、映像とアニメーションについて説明する。		3 DCG、映像とアニメーションについて説明できる。		
		12週	静止画像のディジタル記録とディジタルカメラについて説明する。		静止画像のディジタル記録とディジタルカメラについて説明できる。		
		13週	動画像とテレビジョン、地上ディジタル放送について説明する。		動画像とテレビジョン、地上ディジタル放送について説明できる。		
		14週	音源分離について説明する。		音源分離とその方法について説明できる。		

		15週	マルチメディアに関する最新技術の紹介とまとめ		マルチメディアに関する最新の技術を理解するとともに、メディアシステムに関してまとめを行うことができる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
	発表		相互評価	課題状況	その他	合計
総合評価割合	24		16	20	40	100
基礎的能力	24		16	10	20	70
専門的能力	0		0	10	20	30